

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、教職における実習前後に実施する科目であり、教職の免許状取得のためには必修科目である。学生の87.5%「資格取得に必要である」は、資格取得と認識して受講していた。 教職の実習は初めて経験することになる。そのため、授業内容には、実習に必要な実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師についても、現職の教諭などを講師として招き講話していただいている。さらに、実習発表会に次年度実習を予定3年生の参加を促し4年生の意欲を高めるような授業構成にしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の成績の到達度は、89.1%（±4.9）で、「秀」が50%、「優」が50%の成績であった。DP目標別達成度をみると「知識・理解」81.6%、「思考・判断」88.4%、「関心・意欲」93.8%、「技能・表現」92.0%という結果であった。 学生自身の学習「到達度の自己評価」は、4.3～4.6という評価であった。成績及び学生の自己評価からみて、概ね教育目標は「達成された」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職の実習前後に位置づけられた必修科目である。実習を前後に実施されるという点から、カリキュラムマップの位置づけからみての内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からみると、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質の評価」は、全項目の平均値が4.5点であった。 学生の「学習量の評価」からみると、約半数の学生が実習に向けての準備や復習を6回以上取り組んでいる。 学生の「情報利用」について、「シラバス」を全員が参考にし、88%の学生が計画を立てて講義に参加していた。 学生の「図書館利用」について、「図書・Cinii・インターネット」を88%から100%利用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、教職における実習前後の科目である。この科目の成績到達度や学生自身の「到達度評価」、「授業の質の評価」などからみて概ね達成できたと考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職実践演習は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学生は「資格取得に必要である」と全員が認識し受講している。最初の授業で、全学科対象に授業概要について説明がある。授業の進行は、外部講師から講話、研修会などへの参加など、実際の学校での養護教諭の実践や養護教諭の研究の実際について理解が深まるよう授業内容を構成している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は92.4（±4.96）点であった。目標別に見ると，思考判断に関しては94.0％、関心意欲90.0％、技能表現に関しては92.1％で、達成レベルを80％とすれば全項目達成している。 学生の「到達度自己評価」項目の平均値は4.2～4.5であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職課程の学びの集大成であり、養護教諭免許状取得に必修の科目である。実習後に実施するというカリキュラムマップ上の位置づけやその授業内容としては、妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 DPの項目の達成度からみると、DPの全項目、学生は達成しており妥当であるとする。 ③まとめ 以上、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質の評価」の平均値は3.7～4.3点であった。 学生の「学習量の評価」は、準備と復習どちらも課題に取り組み実施していたと考えられる。 学生の「情報利用」については、回答者全員シラバスを参考にし、教員のオリエンテーションで計画を立案していた。 学生の「図書館・Cinii・インターネット」などの利用については、半分以上の学生が利用していた。 このような学生の評価から、授業の進め方については、概ね妥当とする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教職課程の学びの集大成といえる本科目は、教師へつなぐ内容として概ね達成できたと考える。次年度も、学生が教員になるための力を身につけ、学校での養護教諭の働きについても理解が深まるよう実践的な授業構成としたい。また、他学科の教員と連携し講義を充実させていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるあるため、聖書を読むこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、youtubeチャペルの視聴意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は84点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点ではyoutubeチャペルを視聴しレポートを実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったが、授業の内容で理解できたとする解答も多く、課題を出す等で対応することも考えられる。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったが、この点も課題を出す等で考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、youtubeチャペルの視聴と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。 ② 学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。 ③ プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。昨年度はレポート、発表を連動したことで2重に評価することとなり全体的に平均点の低下となった。今年度はその点の調整を行った結果、総合評価の平均値が上がり、発表成果を評価できるものとなった。 ④ 発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。 ⑤ プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し、優秀賞の学生の発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①105名が履修を行い（うち1名は未履修）、総合評価の平均値は81.3点（昨年度74.7点）だった。98名・93%（昨年度88.5%）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は63名64%（昨年度41.3%）だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-1（知識・理解）は、得点率75.1%、DP3-1（意欲関心）は、得点率84.8%、DP4-1（態度）は、得点率85.7%、DP5-1（技能表現）は、85.3%（昨年度得点率73.2%）だった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は、4.1（4.5-3.6）で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」4.5と最も高く、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができる」4.3、次いで「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.2であった。 ④授業の質評価の平均値は4.4（4.6-4.2）で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.6と最も高く、次いで、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.5、「評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.4で、昨年度と同様の傾向であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生85.4%であった。その回数は、4～6回以上であったのは、それぞれ36.5・32.3（昨年度60.4・53.8%）と昨年度よりも減少していた。課題以外の学習に取り組んだ学生は、39.6%（昨年度50.5%）という結果であった。自由記載から、興味ある分野について調べたり、発表に向けて練習したという記載があった。 ⑥図書館の図書・雑誌の利用は70.8%（昨年度63.7%）、学術データベース利用86.5%（昨年度75.8%）、インターネットホームページ利用91.7%（昨年度90.1%）と、積極的に学習をしていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目で、初年次セミナーⅠで学んだ既習の知識をもとに、討論、発表を取り入れた構成となっている。1年次で身につけなければならない講義内容を含んでおり科目の位置づけとしての内容は妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）、および学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考える。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好であった。初年次セミナーⅠを基盤とした授業構成は、初年次セミナーⅠでの学びの確認と定着に繋がったものと考えられる。しかし、「問い」をたてることの難しさを学生は感じていた。今後は初年次セミナーⅠで「問い」とは何か、「問い」のたて方の演習を取り入れるなど工夫が必要である。 ②自由記述に「グループでmeetを繋いでより良いものを作る」と学内の会議システムを活用して発表練習をする姿がみられ、「プレゼンテーションを人前で発表することができてとても嬉しかった」という成功体験をしていた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。グループワークを中心とした演習科目であるが、学生の自由記述欄から時間外に大学の会議システムを使用してグループ討議を行い課題に取り組んでいたことがうかがえる。 ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。 課題としては、 ①「問い」をたてる演習の強化：次年度は初年次セミナーⅠで「問いをたてる」演習をいれ、初年次セミナーⅡにつながるように検討したい。 ②評価表の検討：昨年度を振り返り評価表の修正を行ったことで、平均点の上昇となった。しかし、2段階評価の項目もあり、評価指標の検討が必要と考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後は反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.6（±7.7）点であった。成績分布別にみると、90点以上が13%、89～80点が58%、79～70点が22%、69～60点が5%であり、60点未満が2%であった。ほぼすべての学生が標準的レベルに達しており、71%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が60%、「わりにそうだと思う」が30%、「まあまあそうだと思う」が10%であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.5）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が36～52%、「わりにそうだと思う」が32～36%、「まあまあだと思う」が12～16%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.3）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が40%、「わりにそうだと思う」が24%、「まあまあだと思う」が24%、「少しそうでないと思う」が8%、「全くそうでないと思う」が4%であり、多くの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が4.0～4.5であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で日々意識的に歩いたり、トレーニングなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。試験前に、授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。試験の結果からみると、得点分布は上位にやや傾きがあり、ポイントはおおむね理解していることが確認された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。他学科も合わせると人数が多いのが課題であるが、今回はオンラインだったので、ネット上で質問を投げかけ、双方向的なやり取りを確保した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の歴史を学ぶことを通して国際的なジェンダー平等についても知識を広げたくて、日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現代社会においてなぜ文学を学ばなければならないか、まずそこから学生に解かねばならない。その理由と目的を理解させることから始め、「文学は実学である」ことに中心軸を置き、学生自身の生活、選んだ専門分野を重ねて鑑みることによって、日常触れている表現、言葉、歴史、心、時代性、古典等々全てが繋がってゆくものであることを知り、生きてゆくうえでの自身のアイデンティティと切り離せないものであることを理解させるべく導いた。そういったことをベースにして文芸学の諸問題の実例を掲げながら考察する際、私たちがドラマや映画を見て感動することは、すなわち、自分自身の人生を客観的に眺めていることと「文学」が同じであることを教授した。ここまでが第一の重要点である。そして次にいよいよ文学作品の消化である。感じた内容には正解はないが、なぜそのように感じたかが最も重要であり、そこに時代性を重ねて鑑みることによって古典を学ぶことが出来る。また愛情表現においても国によって、あるいは時代によって千差万別である。太陽の色しかり。・・・そういったことをどう理解し、どう考察するのか。だから文学は実学であるというのである。そうして初めて「解釈」へと展開してゆくのである。私の講義においては、少なくとも学生はここまでは理解している。またこの度、前述していることをさらに深めるため「文学と性教育」という新しいテーマを掲げ、「性」とは「こころざしを持って生きることであり、本来の性教育（欧米）がめざしたものは広範囲な人間教育（全人教育）が中心である」ことが大変重要であるので、若い世代が新たな価値観を形成してゆく一助が性教育の本来の目的であるという説明を行った。この様に正しく理解して初めて正しい表現が出来ることを教示したが、一部の学生に伝わらない部分があったようで、今後は説明を分かりやすく改善しようと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の提出する感想文には学びの自覚と意欲が感じられ、文学作品を理解する意気込みもあり、それは講義を重ねるごとに増してくるようであった。数字で示すならば80%である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけから見た内容妥当性については、良かったと思います。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	リモート講義ではあったが学生たちの集中は途切れることなく反応はかなり良かったようである。学生の体調や講義の内容によって部屋を変えることもあったため、板書が見つらい学生がいたかもしれない。学生本人の機器の不調を訴えて講義に遅れる学生もいた。また私の所有する国の文献等々は実際にじかに見てほしいものであったが、やはりコロナのためまならず残念であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、かなり良く、80%である。さらに高みを目指して検討工夫してゆきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は56名（回答率78.9%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」55.4%、「単位数を確保する」48.2%、「関心のある内容である」37.5%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の多くの学生が履修したと思われる。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度は第1回を除いて対面授業で行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける可能性を考慮して、昨年度に引き続き、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は82.61点であった。再試対象者は1名、理想的レベル（90点以上）に達した者は18名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに4.4、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.3、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.1であった。他の項目の平均値は3.5-3.9の間にあり、昨年度に比べて全体的に平均値がやや上昇している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.6、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.5、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.4、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.3であり、昨年度とほぼ同様の数値であった。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は35名、復習を全くしなかった学生は35名で、昨年度より増加している。今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外の学習として、「インターネットで調べた」、「授業の内容をノートにまとめた」、「授業で気になったことを高校の時の教科書で復習した」、「選挙について、どんな政党があるか、どのような目標を掲げているのかなど調べた」などの記述があった。他方、授業以外に学習していない理由として「授業内で理解できたから」、「他の科目の課題があったため」、「何をすれば良いか分からなかった」などの記述が見られた。学生からは、「急に休講にした上に、土曜に急な補講を入れられても参加できるわけが無い。少しは学生のことも考えるべきだと思う」という意見があった。今年度は、担当教員の突発的な家庭の事情による休講があり、休講にした週の土曜日に急速補講を設定したが、補講の日程については、看護学科の授業・補講日程も考慮に入れた上で設定しており、決して学生の意向を無視しているわけではない。また、すべての学生の都合を合わせた上で補講日程を組むことは不可能である。よって、対応には特に問題はなかったとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣がさらに定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	テキストの内容を理解するために、テキスト準拠の書き込み式資料を配信した。 テキストを読んで空欄に書き込み、授業で解説を受けることで理解を深めることができる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度は試験ではなく毎回の小レポートと期末レポートで成績評価を行った。 小レポートではできるだけ身近な課題（たとえば人格の尊厳と労働環境、討議倫理と合意形成）に哲学思想を結びつけるよう工夫した。明敏な問題意識を感じさせる答案も複数あり、次回授業の最初に答案例をくわしく紹介し、前回内容の理解を深めるよう工夫した。 期末レポートは講義内容全体をふまえて、各自テキスト、配布資料等を読み直し、一定量の小論文を書かせた。全体に期末レポートの出来栄えはよかったように思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	哲学思想を日常のさまざまな課題と結び付けて解説することを心掛けており、内容はおおむね妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	書き込み式資料をプリントアウトしていない場合に「何をしたいかわからない」ということになった可能性がある（複数コメントあり）。今年度はすべてオンライン授業であったため、授業への取り組み方についてクラスルーム等で指示すべきであったと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ただテキストの内容を理解するにとどまらず、哲学思想を日常生活のさまざまな課題に適用することを極力心がけた。コロナやウクライナ紛争など、世界観や価値観を動揺させる事態が続いている。哲学に何ができるか。微力ながら学生の助力ができるよう、時事問題も適宜取り入れながら工夫したい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル発展	1	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が9割以上を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては半数以上が完成度の高い内容の課題を出せるようになった。到達度自己評価では3-4であることから、教育目標は到達したと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものとするため、「人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している、看護の対象と良好な関係を築くことができる」と定めたDPに沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。遠隔授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。結果、授業の質評価では中央値5の評価が得られた。履修すべき語学の目標レベルには十分に達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける一助になれたのではないかと考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報処理基礎」の内容を受けて、ICTの応用的な活用手法の修得を主目的とした授業である。「情報処理基礎」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、PCを用いてより実務的な表現手法やデータ活用手法の修得に重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が5割程度、「単位数を確保する」が7割程度となっている。昨年度は、コロナ禍におけるオンライン授業の影響により、ICT活用への関心が高まったことで「関心のある内容である」が高い割合であったが、今年度は下がってきている。コロナ禍への慣れなど様々な要因が考えられるが、次年度に向けての改善点と言える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」以上の学生が6割以上、「良」以上では9割以上である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 ただ、学生の到達度自己評価でみると、「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」の比率が高くなっている。オンライン授業の影響により、個別に作業状況を確認しながらの声掛けが行き届かなかった点が影響していることが考えられる。来年度は対面授業を予定していることから、十分な改善を図っていく必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報処理基礎」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報処理基礎」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTスキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられ。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせでどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。オンライン授業であったため、学生の実習状況をリアルタイムに把握することが難しく、個々に応じた適切な指導に限界があった点が発想力の発展に影響を与えたものと考えられる。来年度は対面授業であることから、この点を特に注意して進める必要がある。 ③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向けさらなる検討をしていきたい。オンライン授業による演習科目であるため、学生のPC画面や作業状況をリアルタイムに把握することが難しく、個々に応じて適切な指導や課題提示を行えなかった点も今後に向けての改善点であるが、次年度は対面授業であることからこの点を特に注意して進めたい。 また、授業以外で如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外ではほとんど取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。ただ、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのかという点では、課題を残しており、さらなる向上を目指して検討する必要がある。また、オンライン授業による個々の状況把握についても、改善策を見出す必要がある、次年度は対面事業であることから、オンライン授業の経験を踏まえて、新たな手法を模索していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、3年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では2つの項目についてそれぞれ1名の学生が「全くそうでないと思う」と回答しているのを除いては、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことと授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、1名の学生が「全くそうではないと思う」、2名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。また、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について2名の学生が、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」という項目については1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。遠隔授業の形態での実施で、250名を超える受講生であったため、学生が発言することもできず、チャットで意見のやり取りを行うこともできず、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができなかったため、対応に苦慮した。その部分を補完するため、Googleクラスルームやメールで常時質問等を受け付けるようにして対応した。学生の反応が見えないので、ほぼ毎回小テストを行なって、授業内容が学生に伝わっているかどうか確認しながら実施した。また、課題の内容や期限については、口頭だけでは間違いがあってはいけないので、全てGoogleクラスルームに明記した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は2日間の選択科目で集中講義で、保健福祉学部3学科での合同講義である。受講動機としては「関心のある内容である」、「単位を確保する」が60%であり、昨年より関心の度合いが減少している。授業内容はアクティブ高齢者の支援について講義（4コマ）とPBL（事例検討4コマ）を行うものである。昨年度同様看護学科教員2名配置しており、講義内容について公衆衛生の視点を強化を継続した。看護学科以外の学生にも理解が深まるように講義内容を工夫した。また、オンラインでのPBLが効果的に進められるように教員でシミュレーションを行い、マニュアルも提示した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	各DP項目の教育目標について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からみると、「自分なりの目標を達成した学生」は、（わりにそうだと思う50%、かなりそうだと思う40%）、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う60%、かなりそうだと思う40%）、「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う50%、かなりそうだと思う50%）、「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う40%、かなりそうだと思う40%）であり、達成できたと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要とする技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う50%、かなりそうだと思う30%）であり、ほとんどの学生が目標程度達成できたと考ええる。 以上、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても、本科目の教育目標は達成できたと考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、総合人間学の位置づけであるが、3学科でのPBLに際しては、看護の専門性についても再認識できる科目であり、専門職としての連携協働を考えることができる科目であり、内容的に妥当であると考ええる。 また、看護者として基本的な知識をもとに他学科の学生との意見交換を行うなど、表現力を培うことにもつながっており、内容は妥当であるといえる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(4.5)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.7)であった。他学科の学生とのPBLは、看護の専門職としての自覚を促し、今後学んでいく内容とも関連があり、学習意欲への促しにつながったのではないかと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義は3学科でのPBL形式の講義であり、学生の主体的学習態度が求められる。グループワークであり、自身の専門分野での意見を求められることもあったため、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」については100%がそうだと思うと答えており、シラバスを確認したり、インターネットでの検索を行ったりして、積極的に取り組んだと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	多くの学生が自分なりの目標が到達できたと述べており、本科目の教育目標は達成されたといえる。しかし、オンラインであったため、グループワークの進みにくい班もあり、やりずらさを感じた学生や通信環境の不具合などがあった学生もいた。今後も授業内容や展開方法など教員間で十分に協議し、より質の高い講義をめざしていく。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。特に、看護という職業領域でも多様な職種があることを伝え、今後の4年間の学習に結びつけるよう伝えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義及びインターネット動画の鑑賞によって知識を得るだけでなく、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。コロナ感染拡大防止のためにすべての授業はオンラインとなり、外部講師の講義もオンラインでの受講となった。そのため、チャット機能やグーグルフォームを活用し、随時学生からの反応を得ることができた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。従来の課題は受講者人数が多いために個別的な対応ができないことであったが、本年度はオンライン授業の利点としてチャット機能などを活用し学生の意見を諮ることができた。次年度は対面で学生との活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、キャリア形成のために様々な知識を身につけておくことの重要性を理解してもらい、担当者の専門である社会学の知見を基にして自身のキャリアについて考えてもらうことを目的としている。本学科は、アンケートの回答者数が少ないため、全学科を合わせた傾向でみる必要があるが、「受講動機」では「関心のある内容だから」が多くなっており、本科目の意義についてはシラバスを通じて概ね伝わっているものと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回、講義のあとに感想や自身の考えをコメントするよう求めたが、ほとんどの学生が真面目に受講し、自身のキャリアについて真剣に考えていることが伺える内容であったことから、本科目の目標は概ね達成できたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの「自分なりの目標を達成した」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目で肯定的な回答が高い割合を占めていることから、内容は概ね妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アンケートの結果から、受講者の多くが本科目の予習や復習にはあまり時間を割いていなかった。自由記述の結果から、今年度は遠隔授業により学生の負担が増加していたことが伺える。学生にあまり負担をかけないよう配慮をしたつもりであるが、それは適切であったと考えられる。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	アンケートの結果から、総合的にみて本科目の目標は概ね達成出来ていると考えられるため、次年度に大幅な内容の変更は必要ないと考えている。コロナの影響などで社会に様々な変化が生じている中で、今の情勢に応じた内容の講義となるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	膨大な範囲に及ぶ基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識（高校生物履修の有無）にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であり、以下の点について重点的に取り組んだ。 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。 ②一方向性で知識を講義する形は避けられないが、講義中に随時学生の意見や考えを聞いたり、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うなど、心がけた。 ③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について小テストを行った。 ④折に触れ、医療に関するニュースや実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。 ⑤解剖学実習に向けて、事前学習と事後学習についてその意義について十分に説明し、また予習方法と事後レポートについては構造化した指導を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は67.5点、小テストの点数の平均が14/20点であった。例年より、特に後者が低くかったが、遠隔式での講義、またテスト形式が影響した可能性は否定できない。解剖学レポートの評価点の加算を得て、一応の合格ラインを維持していた。知識が十分に定着していない学生もいることが想定される。 一方で、学生自身の自覚評価は、到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。と評価した学生は20+64/98人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた。とした学生は27+56/98人おり、前期より引き続き、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかった。上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうるが、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(4)自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭以小テストを課したことにより、事前に一回30分以上の復習や準備を複数回行っていた学生が、28+17+31/98人と多く、自己学習の促しには繋がったと考えられた。 解剖学実習については、学生全員、大変意欲的に取り組み、協力大学機関の教員より、その姿勢の評価をいただいた。終了後のレポートの得点平均は17/20点と去年より高く、医療者として糧になる体験を、なんらかの形で内在化させるに契機になり得たかもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにも関わらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。そのため、後期試験が60点未満であった学生には、試験範囲に相当する課題を課し、正確な知識の再履修と再定着の機会とした。提出された内容は、再テストより、質が高いものであった。 また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねる必要がある。 また臓器、機能系統別に、臨床の看護実践とリンクしやすいような工夫も今後必要と考えられ、他領域との連携も必須と考えられる。☑ 学生からは、「理解しやすい授業だった」「わかりやすかった」「医療従事者を目指す者として大切な時間となった」「医療の職業の尊さを実感した」と意欲的な姿勢がうかがえる意見が聞かれた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	知識ベースの科目であり、その点においては、一定程度の達成が見られたが、その定着については評価は困難であり、継続的な支援は必要と考える。 実践的には、毎回の小テスト実施と、その振り返りにより時間をかけることを今後重点的に検討する 学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持できるよう支援の工夫を今後重ねていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義における「理解のしやすさ」の学生評価は高く、意欲や興味を持って臨んでいる姿勢が見られたが、それが知識定着に帰結しない現状があり、復習・振り返りや繰り返しによる強化を今後継続する。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	彌永 清子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤に行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。 本科目は卒業必修科目であり、全学生の受講動機は『必須科目である』との理由であった。また、『資格習得に必要である』は41.7%、『関心のある内容である』は、35.0%という結果である。チーム医療が求められる現状から、治療効果をあげるためにも栄養管理の重要性と認知について授業で伝える必要があると考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均点は90.5点であり、本試験合格者は100%であった。レベルの内訳では、101名全員が標準的レベル(70点以上)を達成した。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、また、学生の到達度自己評価では、全学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実践について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。本講義を通して、管理栄養士の視点から、看護師に求められる栄養に関する知識や技術、他職種協働について、具体的事例を交えながら、説明を行った。講義内容について、学生の自由記述含め、おおむね好評であったことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題はなかった。今年度の工夫として、授業の全てが遠隔授業となり、学生にとってはどうしても受け身の姿勢での受講となってしまうが、できるだけ学生の意見や質問に答えるため、栄養や食事に関する質問を受け付け、授業の最後にフィードバックして、少しでも栄養学に興味を持てるよう、工夫した。質問は多岐にわたっており、このコロナ禍により、自宅での食事をする機会が増えたことにより、食生活に関するものも多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	宮川 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病、疾患についての基礎的な知識であり、分かりやすく記憶に残りやすい説明ができるよう、スライドを準備し、教科書での前学習を指示した。 全体的に自己評価は肯定的であり、各自の努力もあったように推測された。 残念ながら準備に時間を使わなかった、と言う自己評価が散見された。他の課題が忙しいという理由であった。予習をしていると講義が楽で、楽しくなるような工夫が必要に感じた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	試験結果が、94％程度合格で、ある程度満足のいくものであった。 自主的な学習であるが、授業評価アンケートによると、図書館で調べた、と言う学生が28.7%、また学術データベースを使用した学生が26.0%。4人に1人が学術的な経験をしており、頼もしく感じた。他にインターネットで調べた、と言う報告も64.6%に見られた。身近なインターネット上の情報の信頼性について、どのように判断するかを示すことができていれば、より良かったと考えられた。 学習時間がとれないと言う意見もあった。必要講義数も多いが、興味のあるところだけでも調べる姿勢が、そのような学生の内に育って欲しく感じた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、疾患に対する基礎的知識の拡充と、それを基とし論理的思考を行う訓練としての、入り口となるものである。必修科目ではあるが、後の自分の専門に必要である、という気持ちを持ってほしいと感じた。オンライン上ではあるが、学習態度は比較的真剣であるように感じられた。そこから、自分の将来を真剣に考えている学生の方が多数であると推測された。一部危うい学生もいるようであった。学習、自分磨きの動機付けができるような話しがオンラインでは難しい様感じた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回はオンライン講義であり、事前に講義スライドを学生に渡す形をとった。スライドと教科書と説明で、分かりやすかったと言う意見があり、ありがたかった。半面すべての講義内容の補足を、講義後資料として上げてほしいという意見もあった。過剰な要求への対応は逆に自主性をそぐように感じた。オンライン講義中にはなかなか質問をしにくいように感じたので、省みると、講義後質問を受け付けるのは良い考えであった。大体いつも2割弱の学生よりコメントがあった。質に関しては、少しずつ新しい知識が増えるため、そのような新しい知識の背景も伝えられると良かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	疾病、疾患についての基礎的な知識であり、分かりやすく記憶に残りやすい説明を心がけた。まだ実際の医療の経験がない状態であるため、どのような場面でそれぞれの知識が役立つかも説明を加えた。 全体的に自己評価は肯定的であり、各自の努力もあったように推測された。実際に試験でも数名以外は合格ライン以上にあり、知識の定着が、満足のいく程度であった。 欲を言えば、オンラインでは瞬間瞬間の反応を見ることがや、さらに、どのような思考形態、価値観を持っているかを判断することが困難に感じた。どのような夢を持っているかとか、人生を送りたいと思っているかとか知りたいと思った。 よりインタラクティブな知識の伝授ができれば、と感じた。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅱは、前期科目の疾病学各論Ⅰに引き続くもので、内科疾患（腎臓疾患、血液疾患）、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、小児科と精神科は専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が100%ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答も35%以上で例年より多く、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は89点（最高100点、最低51点）でした。半数以上の学生が理想的レベル（80点以上）に到達していました。内科、小児科、精神科の平均点に大きな差はありませんでした。皆さんが満遍なく勉強した表れだと思います。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。この内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。 「疾病学各論Ⅱ」は1年次の「看護形態機能学」「医学総論」、2年次前期の「疾病学各論Ⅰ」「薬理学」で学んだ知識に基づいて、同時期に開講する「看護のための臨床検査」と連動して授業を行います。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「わりにそうだと思う」以上の評価を得ています。学生参加に関しては、遠隔授業であったこともあり他項目に比較すると評価が低いです。今後の改善点と考えます。 自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。以前に改善要求が多かった精神科に関しても、講師が変更したこともあり否定的な意見はありませんでした。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の復習を2回以上行っている学生さんは60%以上で、昨年より増加しています。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	後期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床検査は、診断の確定、重症度の判断、治療効果の判定などのために行われる。検査の目的、実施法、看護上の注意点について、検査内容と疾病とのつながりを系統別に組み立てた。これらの臨床検査で得られたデータの知識を用いて、3年次の看護過程および実習でアセスメントするための基礎的能力を養う。 今回は遠隔授業で実施した。 受講動機は「必修科目である」が最も多く97.1%であった。次いで「資格取得に必要である」48.6%、「関心のある内容である」37.1%であった。 検査の目的・意義や基準値は「一般問題」「状況設定問題」において判断を求める問題が出題されている。そこで、毎回、講義開始前テストと単元終了時に講義内容を踏まえた小テストを実施し、基本的な検査の目的や基準値などの知識の定着を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①104名が履修を行い、総合評価の平均値は71.0点（SD8.0）で、1名は未履修であった。66名の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は13.5%だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識・理解）は、得点率69.1%、DP2-1（思考判断）は、得点率73.3%だった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は、4.2（4.5-3.6）で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」は3.6と最も低く、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.5、次いで「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「職業選択の参考になった」4.3であった。 ④授業の質評価の平均値は4.2（4.3-3.8）で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が3.8と最も低かった。「評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.3であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、それぞれ、62.9%・75.7%であった。詳細には4～6回以上した学生が、予習40.0%、復習35.7%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、68.6%という結果であった。自由記載から、「小テストに向けた復習」「分からないところや、言葉の意味、数値を確認した」と主体的に学習に臨んでいた。 ⑥図書館の図書・雑誌の利用は40.0%、学術データベース利用25.7%、インターネットホームページ利用68.6%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 形態機能学で学んだ既習の知識と本科目と同時並行で学んでいる疾病学、成人看護学方法論と結びつけながら修学するような構成としている。科目の位置づけとしての内容は妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、思考判断）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好であった。 ②自由記述に、「小テストに向けた復習」「分からないところや、言葉の意味、数値を確認した」とあり主体的学習を行っていたと思われる。 ③講義前の確認問題と講義後の小テストを実施した。講義前の確認問題は、検査の目的、基準値を定着することをねらいとした。小テストは講義終了時に実施し、講義中の学びの確認のために実施した。遠隔授業ということで正確な評価となったかは疑問が残るが、学生の自由記述から学習することへの動機づけになっていたと考える。「本格的な内容で難しかったけど、もう一度復習して3年生の実習につなげられるように頑張る」と意欲的な記述がみられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は形態機能学で学んだ既習の知識と同時並行の疾病学、成人看護学方法論で学ぶ看護学と結びつけながら修学する構成としている。 特に同時進行の疾病学や方法論と関連しており、学生の「日々の学び」のコメントに他科目で学習したので復習になったという記載がみられており、今後他科目との進度の確認と学びの繋がりを意識して講義展開を行ってきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	保険統計学は、人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行うとする社会医学の基礎です。臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing（根拠に基づいた看護）を行ううえで保健統計学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも保健統計学に関する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計(改訂3版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の前半は前回の復習にあてるようにしました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、ほとんどが「必修科目である」ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も20%以上で見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	末試験、課題レポート、授業貢献度から評価した最終成績は平均値84点（最高値99点、最低点24点）でした。理想的レベル（80点以上）に到達した学生さんが70%でした。学生間で成績のばらつきはありましたが、大多数の学生さんが最終的に標準レベルに到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、多くの項目で「まあまあそうだと思う」以上の評価でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の項目が低いのは、座学という性格上やむをえないと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する授業、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は（遠隔授業が中心であったにもかかわらず）平均値4.6と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれていたと考えます。 ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目が低いのは例年の課題ですが、知識を教授する内容がメインですので、なかなか難しいです。自由記載では肯定的な意見が多かったです。基本的には現在の授業スタイルを継続したいと思います。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生が約半数でした。また、遠隔授業のためか、ネットを利用して勉強した学生が多かったです。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は保健師コースを選択する学生さんはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 看護学科の1年生にとっては馴染みのない分野であったにもかかわらず、全員が頑張って勉強されたと思います。 今後は、学生さんがもっと興味を持って積極的に参加できる授業にすることが課題と考えています。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障概説	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、「看護を学ぶための基礎」として位置づけられている。中学・高校で学んだ「公民」の内容が基盤であるが、看護学科の学生は法律や法律用語にかなりの苦手意識がある。受講動機を見ると、「必修科目である」が97.8%で、「関心のある内容である」が12.4%（昨年度29.1%）あった。「資格取得に必要である」は29.2%あったことから、苦手の中でも看護に必要な知識であることを意識されていると感じた。 講義内容は、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生を柱として、保健・医療・福祉の諸制度や法的根拠を解説している。苦手意識から、本科目を楽しんでいることはないと思われる。そのため、なぜ看護に社会保障の知識が必要か、どんな場面で社会保障の知識が必要か、を説明し、興味と意欲を高めた。また、法律名、福祉サービスの種類などなど、覚えてもらう事が必要なことから、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説した。そして、プリントやスライドには教科書のページ数を記載して、復習できるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの「到達度自己評価」の結果では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」の平均が4.2点（昨年度4.4点）が最も高く、次に高いのは「学ぼうとしている学問分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」と「学ぼうとしている学問分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた」の平均が4.1点（昨年4.4点）、の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」の平均が4.1点であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」の平均は3.4点（昨年3.5点）と最も低い。これは、科目の特性で知識の獲得を大きな目的としていることから、授業中にディスカッションしたり発表をする機会が少なかったからと推測する。特性に応じた到達目標を設定して、科目展開していきたい。 「学習量の評価」では、授業の記録を配布資料に書き込んだりノートを作成した学生が全体の96%（昨年度95%）あったが、課題以外の学習に取り組んだ学生が全体の45%（昨年度62%）であった。自由記載では、「時間がなかった」「何をすればよいかわからなかった」という意見が目立った。大学生として、主体的学習に取り組んでほしい。 最終的な成績は、平均点80.4点（昨年82.2点）であった。成績の内訳は、秀 6名（昨年10名）、優 60名（昨年59名）、良 24名（昨年28名）、可 4名（昨年8名）、不可（放棄含む）3名（昨年0名）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、DP1「知識・理解」-2)看護実践に必要な基本的な知識を修得している。およびDP2「思考・判断」-1)健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考判断できるを目標とし、看護実践の基盤に位置付けられている。1年生の科目で、健康や疾患でなく法律を扱う科目であることから、教養科目と勘違いする学生が多いように思われる。そのため、社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、を「知識・理解」を得るために解説し、患者を想定した事例を通して「思考・判断」をしていく授業展開にしていた。そのことは、法律の知識が看護にどう使うか、それを知らなければ患者にどう悪影響があるかわかる仕掛けである。自由記載の中では、「公衆衛生で学んだことと照らし合わせていた」という記載があり、看護専門科目として認識し、しかも他の科目とのつながりを考えられていたことに感心した。 看護師国家試験において、関係法規については一定数の問題が出題されている。そこで、実際の国家試験問題を紹介し、「国家試験にはこう出る」という練習問題を実施し解説していった。これらの問題に関して、学生の関心は高かったように感じた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義では、看護教員だけでなく現職の社会福祉士・精神保健福祉士の外部講師から助力を得ている。外部講師から福祉の視点での解説を得て、それをしての後の授業で看護場面での活用事例としての解説を行った。このことで学生は、法律を覚えることが目標でなく、患者に役立てる事が目標であることを意識してもらうための仕掛けであった。シラバスには予習・復習の指定はあるものの、「提出課題」は少なくした。"課題以外の学習に取り組んだ"が45%であった。授業評価アンケートの「課題以外の学習に取り組んでいない理由」で、"授業内で理解できた"の意見があるが、"他の課題を優先した" "何をしてよいか分からなかった"との回答があった。「自分なりの目標を達成した」の自己評価平均点が3.8点で、他の評価点に比べて低いことから、学習目標を得にくい授業だったと感じた。授業内でも短期的な目標を設定して達成感を持たせるような動機づけを行っていきたい。 講義終了後に何人か教室の前に来て質問をしていていた。また、毎回、出席シートに授業の感想、質問を記入してもらっており、記入された質問には、必ずコメントまたは口頭で回答していた。授業評価アンケートの授業の質では、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の設問で、（昨年度26%）、「わりにそうだと思う」24%（昨年度23%）、「かなりそうだと思う」45%（昨年度30%）であった。一方、「少しそうではない/全くそうではない」は4%（昨年度13%）であった。「かなりそうだと思う」が増えているのは、理解しやすい授業と同時に質問しやすい関係と雰囲気を作るようにしたこと、昨年は遠隔授業でチャットで質問や授業終了後に残って質問したとしても、他の人に内容を知られるが、対面授業では1対1で聞くことも、友人と一緒に質問に来られることから、質問しやすい状況もあったのだろう。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	法律や制度の講義でありながらも、覚える事と考える事をやっていく講義を目指した。そのためレポート課題は、自分で現代の社会問題を探して、そのことについて調べ、考えを述べるものとした。また、常に看護師として患者の役に立つことを意識させ、知識を実際の場面につなげていった。 法律や制度は社会の状況によって変わる。社会の動きと制度の変更についてを意識して、常々、ニュース・報道を見たり社会調査の結果を見たりしていけるように意識づけしたい。 定期テストは、一夜漬けの短期記憶で終わらないように「自筆の資料を持ち込み可」とした。そして、その資料は、講義資料と共に保存版とするように説明した。このことが、今後の自立した学習に繋がれたらいいと切に願う。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床健康心理学	2	後期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義を受講するにあたり、すでに心理学の講義を受講し基礎知識を有している学生もいたが、本講義において初めて臨床心理学を学ぶ学生もいた。そのため、初めて臨床心理学の講義を受講する学生に向けて、授業の前半部においては、臨床心理学の基礎知識についての講義を実施した。また、すでに基礎知識を有している学生もいることから、基礎知識がどのように看護の場面において観察されるか、あるいは活かされるかなどの応用的な話題にも触れるよう配慮した。「受講動機」をみると、「関心のある内容である」を選択した受講生が74.0%と最も高いことから、実習や看護実践に活かそうと意欲的に受講している学生が多いことが考えられた。そのため、授業後半では事例などを適宜紹介しながら、より実践的な話題を扱うよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度の成績については、平均93.90点／100点（標準偏差 8.35点）であった。この結果から、概ねの学生が授業の内容を理解し授業目標を達成したことが考えられた。また、授業評価アンケートにおける「到達度自己評価」の「（1）自分なりの目標を達成した」に関しても、「わりにそうだと思う」「とてもそうだと思う」と回答した学生の割合（42/50人）からも、概ねの学生が授業を理解したと感じ、目標を達成したと評価していることが示唆された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	初めて心理学の講義を受講する学生に配慮しつつ、事例などの発展的な内容に踏み込むことは、7回の授業回数では限界があった。授業内容を踏まえ、基礎的な学習を踏まえて受講できるようになると、より望ましいと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートにおける「授業の質評価」をみると、全項目において平均4点以上となっていたため、受講学生に成績評価の基準等が明確に伝わっていたことが示唆された。来年度も同様に、1回目の授業において、明確に成績評価等について学生に伝えるようにしたい。 また、看護学科の学生は、心理学の講義を受講する機会は限られていると考えられるため、本講義において受講生の臨床心理学的理解が深まるよう、来年度以降も今年度と同様に、学生の質問等にも答える時間を十分に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2020年度に比べ「インターネットの利用」については利用した学生が増加した。次年度以降も、授業内容に関連した推薦図書や、実習中などに振り返る材料となるようなキーワードやテーマを紹介し、学生が自発的に興味をもって学習に取り組めるよう心掛けたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講の目的は、学生自身が医療現場における事象あるいは課題の問題点がどこにあるかをただ知るのではなく、それらを把握し、その上で議論あるいは解決策への思索をする方法を習得することである。そうすることで、自ら新たな問題発見をすることも可能となる。 講義においては、まず倫理的正当性とはいかに担保し得るのか、など、倫理的な思考アプローチについて学ぶ段階を置き、次に各論的問題を具体的に紹介しながら学生それぞれが自分ごととして考えることを促すために双方向性の議論をする機会を都度、設けた。最終段階として、思考実験も併せた問題提起をし、各自、それまでの倫理的思考アプローチを活用して理論立てて検討させる時間を設けた。 また毎回講義内容を振り返られる目的で、次の講義の冒頭で小テストを行い、知識習得を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講動機に「関心のある内容である」とした学生91.2%であったこともあり、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」については4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」についても4.7、と講義への意欲、興味は高いと考えられた。 後期期末試験の平均点は77.0点であり、内訳においては、課題に対する自由記述項目については一定程度、力がついていた（平均点17.8/20）が、具体的知識の定着については課題が残った（平均点50.2/80）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	上述の通り、DP4の態度については、思考課題への取り組み、その内容についても意欲は高く、学生自身の自己評価も、高かった。 本講義は、医療専門職となるために不可欠な知識と思考アプローチを習得する機会となり、看護学科1年生としてのステップとして重要な位置を占めることが考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価・授業の質評価は全体的に高く、自由記述においても学生自身にとり意義あったことが伺えたが、知識の習得については、学生自身の自己評価と客観評価にやや乖離があり、思考重視の授業形態について、見直す箇所と考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	7コマで医療における倫理的課題の全容を知ること、かつ考えられるようになること、の両面を網羅し、達成することが難しいが、講義の構造化により一定程度の効果が得られたと考えられる。 今後は最低限の知識定着の強化を図りつつ、倫理的課題は時間的横軸に添い変容することから、知識を更新する力も併せて必要になることを念頭に次年度の内容を修正したい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年次後期の必修科目である。学生は、1年次の看護学概論、早期看護実習、基礎看護学実習Ⅰ、2年次前期の基礎看護学実習Ⅱなどの科目を履修しているため、看護者の倫理綱領や個人情報の保護など、看護実践の場や受け持ち患者の看護をととして、看護倫理について学習する機会は得ている。 2021年度は7回のオンライン授業を実施し、学生の既習の学びを確認しながら、「看護倫理に関する基礎的知識」の概説と「看護実践における倫理的課題と対応」について、事例を用いて、ブレイクアウトルームでグループワーク学習を導入し、理解が深まるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は、定期試験とレポート、グループ学習により採点した。平均点は83.2±7.8点であり、履修者全員が合格基準に達した。学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標達成」の項目は、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」の肯定的な回答割合が99%であった。「新たな知識」「事象を理解する視点や考え方」「的確に判断する力」「学ぶ意欲」「表現力を高める」などの項目においても、肯定的な回答割合が99%であった。また、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」については、肯定的回答割合は99%であった。次に、学生の学習量の評価では、1回に30分程度以上の準備は60%がしていると回答し、復習をする人は約53%であった。情報利用では、54%がシラバスを参考にしていた。大学に入構しない日もあり、図書館の利用は約38%、インターネットのホームページ検索の利用は、約89%であった。学生の授業後の感想では、グループワークや他のグループの発表を聞いて、「さまざまな意見、視点があり、勉強になった、実習に活かしたい。」と意欲が見られた。看護倫理における学習目標は達成されたと考えられる。学生の講義への取り組み姿勢や図書館の利用、学習量については、今後も課題であり、工夫が必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、知識・理解(DP1-2「看護実践に必要な基本的知識」の修得)、態度(DP4-1「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる」)の達成を目標としている。学生の到達度自己評価および、試験、レポートなどから、看護実践に必要な看護倫理の基礎知識、倫理的課題、倫理的課題への対応などについての基礎的知識を修得できたと考えられる。 また、学生はグループの事例検討で倫理的課題と対応について意見交換し、看護倫理の視点から、「今後の看護に求められる倫理」について、授業中に発表したり、課題レポートに記述することができた。カリキュラムマップにおける位置づけは看護実践の基盤であり、基礎的な段階として、内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「説明の理解しやすさ」の項目について肯定的回答割合は99%であった。全員の学生が理解しやすいように説明を工夫する必要がある。また、授業中に事例に基づいてグループワークを導入し、発表も導入した。学生の授業評価では、「自分の意見をまとめ、話し合う、発表するなど学生が参加する機会がつくられていた」の項目は、肯定的回答割合は99%であった。また、「事例について考え、わかりやすかった」という感想があり、複数の看護場面や、看護事例についての提示が効果があったと考えられる。今後も、全員がグループ学習に参加して自分の意見をまとめ、話し合う、発表するという認識を持てるように、事例提供を工夫することが必要である。さらに、学生の予習・復習の学習量が増えるように、学習課題についても検討することが必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今回はオンライン授業を行い、授業の目標は、達成できたと考える。 今後は、限られた授業時間の中で、グループワーク導入時の工夫や、事例の提供、講義時の説明をわかりやすいように工夫すること、学習課題を増やすことなどが課題である。看護倫理の目的やグループ学習の目的を強調するなど、授業方法の改善を行っていくことが必要である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活援助技術論演習	1	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、看護師としての主たる役割である患者の療養上の世話に値する科目であり、単位数も3単位を占めるとともに、看護師国家試験の出題数も多い。このため、日常生活行動別（活動・清潔・整容・更衣行動、食事行動、排尿・排便行動）、これに加え感染防止対策、褥瘡予防対策も加え、カテゴリーごとに単元を構成し、講義・演習の順番で、学生が授業内容を整理し準備が整った後に演習を行い理解が進むように配慮した。さらに授業資料はイメージ化が図れるよう、イラストや写真を複数活用するとともに、色で重要な箇所を識別するようにし重要ポイントが判断しやすいように工夫を行った。またこの資料はモノクロ版は当日配布するが、学生のカラー版の希望に応え、Googleクラスルームには数日前にはカラー版の資料をアップし学生が資料を選択できるように配慮した。また適宜動画をアップし、コロナ禍で演習時間に制限があり自主練習が困難な学生が技術を理解できるよう配慮し学習支援を継続した。演習では療養上の世話の核である「安全」「安楽」「自立」の視点と、それを支える科学的根拠の思考が行えるようなワークシートを作成し演習を構成した。また専門職として他者の信頼を得られる人材に育成することも考慮し、時間厳守や社会人マナーの教育も授業内に組み込み教員内で共有を図りながら教育を行った。演習においてはCOVID-19の影響を鑑み、学生の健康を遵守するため、全学生を2班に分け3密を避けた構成とし、教員は2回同じ演習を実施した。演習がない班は自己学習時間とし学習ワークシートを作成、教員が1名常時支援を行うこととし、基礎看護学教員全員で演習と学習支援を分担して行った。実技試験に関しては3年生の学内実習の影響で授業以外では実習室を使用できなかったため、実技試験は困難と判断し、レポートに変更をして評価を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目は演習科目のため実技試験を評価指標の1つとしていたが、COVID-19の影響で3授業以外では実習室を使用することは困難となり、自主練習場所を確保出来なかったため実技試験は困難と判断し、達成度評価は、当初の予定の筆記試験（60%）、レポート外の提出物（学習ポートフォリオ・提出物など：10%）、「その他（30%）」に位置づけた実技試験（25%）と授業貢献度（5%）から、筆記試験65%、レポート15%、ポートフォリオ提出15%、授業貢献度5%の総合評価に変更した。総合点数の平均値は72±9で、昨年度の68.69±9.21よりも改善し、最高得点は87点、最低32点であった。筆記試験では知識を問うものは比較的点数は確保できているものの、思考を問う問題では記載できない傾向も認めた。成績の内訳は秀0名(0%)、優21名(21%)、良45名(45%)、可31名(31%)、再試験を受けた学生は8名(8%)で、うち不可の学生が2名(1名再試験不合格、1名は未受験)であった。昨年と比較すると優の学生数が11名から21名に増え、可の学生数が52名から31名に減少している。到達度自己評価の平均値は全て4.3以上あり、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(4.6)」「(4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた(4.6)」「(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた(4.5)」「(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた(4.6)」「(9)職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた(4.5)」と学生の達成感覚を伺うことができる。しかし学習量では回答学生の10%は予習・復習は行っておらず、さらに35%の学生は課題以外では学習を行っていないため授業だけで満足している傾向もうかがえる。しかし態度面では授業開始5分前には集合し、行動面での成長を実感することができた。以上より全般的な成績は昨年度よりも向上しているものの、筆記試験を通しての思考への課題、自己学習時間の不足、再履修者2名を認めたこともあり上記のような判断となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は1年次後期の看護の基本を学び主たる科目の1つである。看護師の役割である「療養上の世話」という看護実践の基盤となる基本的知識と技術を学ぶ科目であるため、DPに則って、「1. 健康的な日常生活行動を促進する看護援助に必要な基礎的知識を修得することができる。」「2. 健康的な日常生活行動を促進する看護援助を、科学的根拠と対象者の自立度に基づく「安全」「安楽」「自立」の視点から、情報や知識を活用し論理的に思考・判断することができる。」「3. 日常生活の援助を受ける患者の気持ちを理解し、看護専門職として援助に適した誠実な態度で授業に臨むことができる。」「4. 自己学習もしくはグループ活動を通して、科学的根拠に基づく対象者に最も即した日常生活援助を看護実践しようとする探求姿勢を身につけている。」という行動目標を掲げ、授業の構築を行っている。 しかし学生は1年次であり、まだ看護師の役割や存在意義のイメージ化が図れているレベルではない上に、COVID-19の影響で1年前期の早期看護実習も学内実習となっており、患者を生活者として捉え、個別性を考えながら愛護的に関わるということは難しい課題であったと推察する。これは受講動機も殆どは必修科目であり、関心がある科目は30%程度にとどまっていることからもうかがえる。このため可能な限り、自身や家族・親族の生活状況を振り返りながら患者に落とし込み思考できるように配慮していった。結果、到達度自己評価は全て4.3以上であり、授業を通して学生は看護の専門分野に必要な、課題検討力、判断力、意欲や技術の習得、コミュニケーション力、ルール遵守等の学びを深めていたといえ、シラバスに掲げた行動目標はある程度達成できたと判断できる。よって専門科目としての知識理解や思考判断、態度において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業に関しては、イメージを付けやすいように「活動を援助する技術」などタイトルをつけ、活動、栄養、清潔、排泄、感染予防など日常生活行動内容を鑑み授業は構成している。まずは講義を行い、翌週もしくは同日に授業を行うにしても昼休憩を挟み、授業内容を整理する時間を設ける工夫は継続させた。また感染防止対策のため、演習は3密を避けるよう2班に分け演習を行い、演習がない時間は課題ワークを作成し知識の修得や演習のリフレクションが行えるよう構成した、しかし技術は反復練習が不可欠であるが、COVID-19の影響で3年生が学内実習を行っている場合は、反復練習を行うことは不可能な状況であったため、配信動画などの導入が必要である。また実習室のモデル人形や必要な医療器具の老朽化も目立つため、このような練習器材の改善は質の高い演習授業を構築していくためには必須と考える。しかし、授業の質評価では、全て4.4以上と高い評価であり、一定の質は確保することができたと考える。 学生の自由意見として「連絡が遅い」との意見を2件認めたが、この授業は複数の教員が担当して行っている。私は授業当日に持参品等の連絡を行ったことは1度もなく、火曜日のフィジカルアセスメント技術演習終了後に、金曜日の生活援助技術論演習の連絡はアップされるように調整を図っていた。今後は全教員が学生が余裕をもって準備できるように調整を図っていく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の総合点数の平均値は72±9で、昨年度よりも改善し、優の学生数が11名から21名に増え、可の学生数が52名から31名に減少している。学生による到達度自己評価の平均値は全て4.3以上あり、学生の達成感覚を伺うことができる。しかし学習量の評価としては、回答学生の10%は予習・復習は行っておらず、さらに35%の学生は課題以外では学習を行ってはおらず、授業だけで満足している傾向もうかがえた。しかし態度面としては、殆どの学生は授業を休むことなく出席し、授業開始5分前には授業・演習場所に集合しており、行動面での成長を実感することができた。 授業は活動、栄養、清潔、排泄、感染予防など日常生活行動内容別に構成し、講義のあとと演習を行い、また演習も感染防止対策のため2班にわけて実施している、そして演習がない時間は課題や演習のリフレクションが行えるように工夫し3コマという長い時間でも学生が効果的に学習が行える学習環境を整備することに尽力したと考える。その結果、授業の質評価は全て4.4以上の評価を得ている。以上より全般的な成績は昨年度よりも向上し、筆記試験を通しての思考への課題はあるものの、授業の質評価も全ての項目において高評価であることから、ある一定の授業の質を担保することができ、シラバスにおける行動目標は概ね達成できたと判断する。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フィジカルアセスメント技術演習	1	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	フィジカルアセスメント技術演習の授業にあたっては、毎回、以下1～5を大切と考えて授業を行っている。今年度もその方針に変わりはない。 1. 看護アセスメントの前提となる基礎知識の理解はもとより、看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術（バイタルサイン測定技術など）を確実に習得できるように支援する。 2. 「生きている」ための機能に係る主な器官系（呼吸器系・循環器系・消化器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 3. 「生きていく」ための機能に係る主な器官系（感覚器系・脳神経系・運動器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 4. 看護の対象を身体的、心理・社会的側面から総合的に理解することの必要性とその見方・考え方を、概説的な捉え方にはなるがわかるように支援する。 5. 演習（技術習得の過程）を通して看護師役割を演じる自己を客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度についても考える機会とし、期待される行動変容につなげられるように支援する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当該科目は「必修科目」(98.9%)であり、2年次生全員が履修する。従って、受講動機に「資格取得に必要」(34.1%)、「単位数を確保する」(16.5%)、「GPAをあげる」(7.7%)を挙げる者が殆どである。その中で、今年度「関心のある内容」(17.6%)を選択した学生が、昨年度の倍以上いた。この点は興味深かった。その他「友人が履修している」(1.1%)を選択した者もいた。 受講生の意欲関心について、全体印象は例年と変わりなかったため、成績評価の割合を検討する際も、例年と同じく筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)による総合評価とする予定であった。しかし、実技試験を実施した際、実技本試験合格者が101名中わずか34名と、例年の半数以下であったことから、実技本試験に合格できなかった者がクラスの7割近くいることの全体評価への影響が懸念された。そこで、筆記試験(60→65%)、実技試験(25→20%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)と、配点割合を一部見直すことで調整を図った。結果として、本当該科目の最終評価は、秀該当者なし、優 25名(24.8%)、良 33名(32.7%)、可 40名(39.6%)、不可(再履修者) 3名(3.0%)で、クラス平均 71.0 (SD ±10.27) 点、最高 89点、最低 44点と、クラス全体では昨年度を1ポイント下回る程度であったが、クラスの約4割が標準レベル(70点)に達していない状況は、今後への影響が憂慮された。 学習量の評価に関する自由記述は63件あった。コロナ災禍の影響か「家の中で予習・復習・調べ学習に取り組んだ(32件)」「配信された動画やYouTube動画を繰り返し視聴した(6件)」「教科書を読んだり、参考図書を利用したり、問題を解いたりした(5件)」「バイタルの自主練習(11件)」「看護形態機能学の復習に取り組んだ(8件)」「図書館を利用した」「自分で重要事項をまとめた」「ポートフォリオを作成した」など、学生が主体的・自主的に学習に取り組んでいる様子が窺え、前述した成績結果の様相とは異なる学生の学びの姿勢・態度を知ることができた。 到達度自己評価では、全項目中央値：4.0又は5.0、平均値：4.0～4.4で、全体として、学部、学科のそれを上回っていた。各項目の内訳は、「自分なりの目標を達成した」(4.0/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/5.0)、その他「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の3項目も平均値：4.4／中央値：5.0であった。残り「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」の4項目は、全て平均値：4.3／中央値：5.0であった。 前の成績評価と併せて、当該科目の教育目標は、全体を通して「やや達成された」と判断した。なお、授業の質評価においては、5項目中4項目で平均値が中央値を上回っており、主体的学修を促そうとの教員側の取り組みは、学生の学ぶ姿勢や態度に良い影響をもたらしたのではないかと考えている。 以上の結果をもとに、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」は、知識理解(DP1)、思考判断(DP2)、態度(DP4)ともに「やや達成された」と判断すした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生は当該科目を「必修科目である」(98.9%)として、また「資格取得に必要なである」(34.1%)との認識をもって受講していた、到達度自己評価「自分なりの目標を達成した」(平均値4.0/中央値4.0)は、学部全体のそれと等しく、学生は自分なりの目標をもって主体的に授業に臨んでいたと考える。但し、学科の到達度自己評価(4.2)には0.2ポイント及ばず、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容的妥当性及び教育目標の達成度について、全体を通して「やや達成された」とした判断は妥当と考える。 学生の自由記述からは、本授業の学修準備として「予習・復習」したり、「図書館を利用」したり、「自主学習／自主練習」に取り組んだり、進んで「重要項目をまとめ」たり、また、看護の対象者の身体状態を理解するために基礎専門科目（看護形態機能学）の学び直しに取り組んだり、当該科目が提示した「学生が達成すべき行動目標」の達成を目指して自主的・主体的に学習に取り組んでいた様子は窺える。但し、それが成績評価に効果的に反映されたとはいえない点を考慮し、DP4「態度」を「やや達成された」とした判断も妥当と考える。DP1「知識理解」、DP2「思考判断」に関しても、①学生の到達度評価(3)～(5)は平均値4.1～4.4/中央値4.0又は5.0で昨年度を幾分下回っていたこと、②成績評価の結果も昨年度を1ポイント程度下回っていたこと、③総合評価において標準レベルに達した学生の割合が全体の57.5%と昨年度同様低かったこと、以上3点を根拠に、目標到達度は「やや達成された」と判断した
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1年次生101名を対象に、例年同様、看護の対象者の身体状態を把握するための観察技術（バイタルサイン測定技術）、「生きている」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系、「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系、運動器（筋・骨格）系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目指して、講義・デモンストレーション・技術演習・実技試験の流れで1単位 30時間（2コマ連続 8回）の授業を行った。コロナ禍での授業は、特に本授業が演習主体の科目であるため、通常の授業はもちろんのこと、実技試験に向けての自主練習等、3密を避けるべくクラスを2分したり、患者体験の機会を減らしたり、自主練習日、実習室への入室人数、練習時間等を制限したりしての実施となった。自他ともに健康を守る上での致し方ない措置であったとはいえ、学生には、様々な不都合・不自由・不充足を強いることになったのではないかと申し訳なく思っている。コロナ禍でのこうした対応が、実技本試験の結果にも大きく影響したと考えている。もちろん、基礎看護学分野を担当する助教助手と協力して、可能な限り学生の看護技術習得に向けて支援を行ってはきたが、コロナ前と比較すれば圧倒的に使える時間は限られた。加えて、今年度も基礎看護学分野を担当する教員不足は解消しておらず、本来7名のところを5名体制で臨まざるを得ず、学生101名に基本看護技術を確実に習得させるには、人的にも、時間的にも十分な学習環境を提供できたとは言いがたい。来年度はぜひとも人員確保に努めた い。 昨年度と違い「対面」で授業できたことは本授業にとって大きな強みであった。但し、限られた人員、限られた時間の中で、学生個々にきめ細かく丁寧な支援ができたかには不安が残ったが、学生の「バイタルサイン試験では自主練習の時間は少なかったが、デモンストレーション動画やポイントを押さえてくれた」「講義時間以外にも自主練習の時間を作ってくれた」「看護師になるにあたって重要なことばかりだったのでためになった」「ありがとうございました」のメッセージに救われた。一方「必要品等の連絡は早めに」との要望が複数件挙がっていたので、この点は今後気をつけた。 学習量の評価について、約7割の学生が「予習・復習」「自発的学習」「調べ学習」「図書利用」「自主練習」に取り組んでいた。情報利用については、72.5%の学生が「シラバスの記載を参考にした」と回答、「あらかじめ授業の計画を立てた」学生も60.4%いた。図書館等利用については、図書館の図書等を利用した（39.6%）/しなかった（60.4%）、SNSを検索・利用した（70.3%）/しなかった（29.7%）の回答から、ネット社会を生きる現代学生気質を窺わせつつ、コロナ禍での自粛の影響か、あるいは主体的学習者としての学習方略の獲得に至っていないのか、学生の多くは学習レディネスに課題を残していると推察され、そうした態度・行動が「知識理解」「思考判断」に影響していると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	当該科目は「必修科目」(98.9%)であり、2年次生は全員履修する。今年度、受講動機を「関心のある内容」(17.6%)とした学生が昨年より倍以上の点は、興味深かった。他に「友人が履修している」(1.1%)を選択した者もいた。受講生の意欲・関心は、従来と変わらない印象であったため、科目の成績評価を考える際、例年同様、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度（15%）による総合評価を予定した。しかし、実技試験を実施したところ、本試験合格者が101名中34名（例年の半数以下）と少なく、実技試験に合格できず実技点が獲得できないことでの評価への影響が懸念されたため、配点を、筆記試験(60→65%)、実技試験(25→20%)、課題レポート及び学習貢献度（15%）に一部変更することでの調整を図った。成績の最終結果は、秀 25名(24.8%)、良 33名(32.7%)、可 40名(39.6%)、不可(再履修者) 3名(3.0%)で、クラス平均 71.0 (SD±10.27) 点、最高 89点、最低 44点であった。全体でみれば昨年度を約1ポイント下回った程度であったが、クラスの約4割が標準レベル(70点)に達していない状況に今後の学習への影響が憂慮された。よって、「知識理解」「思考判断」及び「態度」のいずれも、教育目標は「やや達成された」とした。 学習量の評価に関する自由記述は63件あった。コロナ災禍の影響か「家の中で予習・復習・調べ学習に取り組んだ」(32件)、「配信された動画やYouTube動画を繰り返し視聴した」(6件)、「教科書を読んだり、参考図書を利用したり、問題を解いたりした」(5件)の他、「バイタルの自主練習」(11件)、「看護形態機能学の復習」(8件)、「図書館の利用」「自分で重要事項をまとめた」「ポートフォリオを作成した」など、学生が自主的・主体的に学習に取り組む様子が窺え、成績結果とは異なる学生の学びの姿勢・意欲関心を知るところとなった。 到達度自己評価は、各項目、中央値：4.0又は5.0、平均値：4.0～4.4の範囲で、概ね学部、学科のそれを上回っていた。具体的には、「自分なりの目標を達成した」(4.0/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の4項目が平均値(4.4)／中央値(5.0)、他4項目「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」は平均値(4.3)／中央値(5.0)であった。 授業の質評価では、5項目中4項目の平均値が中央値を上回っており、教員の授業への取り組みが、学習目標の達成に有効であったと考える。 今後の課題について、授業に臨む学生の姿勢、意欲関心は、教員が授業時に受ける印象ほど悪くないと推察するが、それが「知識理解」「思考判断」に効果的に反映されていない点が課題と言える。次年度は、学生がより主体的に、興味関心をもって授業参加できるように、演習前後の課題の見直し、実際の演習方法をさらに工夫することにより、「知識理解」「思考判断」の向上につなげていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生の前期必修科目である。学生の受講動機は、例年変わらず「必修科目である」ことが、98.9%を占め、ほとんどの学生の動機となっている。 例年、この事を踏まえ、第1回の授業では、シラバスによる説明で、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。 今年度は、3人の教員がオムニバス形式で講義を担当したが、初年次の学生の講義であることを踏まえ、コメントカードの活用及び授業の態度意欲を向上するための申し合わせを行い授業に臨んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は7点で6.6あり、再試対象者は4名であった。標準的レベルに達した学生が95.8%であった。内、理想的レベルに達した者は39.6%と、約4割の学生が達成した。 目標別にみると、知識理解・思考判断に関しては77.7%、意欲・関心に関しては75.4%であった。 学生による授業評価においては、到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.3、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」4.2と受講動機における関心の低さに比べ、講義後、公衆衛生看護に対する関心を示す成果が見られた。学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、2018年度3.5から3.9、2019年度3.9～4.2、2020年度4.1～4.3、2021年度と3.8～4.4と改善している。対象学生は違うため一概には判断できないが、1年生であることを踏まえ、理解しやすい授業を構成することと、学生の主体的参加への試みが少しずつ改善していることが伺える。一方で2021年度授業の質評価において3.8であったのは、「発表する機会があったか」という項目であり、今年度は授業方法として、その機会は少なかったと反省している。 教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。 今後も授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を継続的に目指したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉えがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置づけられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護者の視点は、基盤となる科目である、 今年度も特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、95.8%が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達した。加えて「理解しづらさ」を感じた学生が0%であることは、学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育課程においては「看護の基本」に位置づけられている本科目の役割は、果たすために、受講学生全員の達成状況を上げることと、そのためには学生自身が主体的学習者として、関心を持ち、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善をさらに図っていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護方法論	2	後期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護の必須科目であり受講動機も約98%が必須科目であると回答をしている。学生の準備性としては、本科目への関心は43.3%と興味をもって いる学生も少なくないことがわかる。しかし、社会的に核家族化しており、子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくい ため学生にとって、健康な子どもも理解しにくい学生がいる中、さらに、健康障害をもつ子どもや入院中の子どもの姿はさらに想像しにくいと考えられた。そこで、視聴覚教材の活用をできる限り取り入れた講義内容にしている。また、実際の社会の中での子どもの健康問題に目を向け他者の意見にも耳を傾け自らの意見、考えを 発表できる場を取り入れている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は76.4点であった。70点台(良)が59名で、80点以上は32名（秀：0名、優：32名）と約88.3%の学生が理想的レベルに到達していた。再試験対象者はいなかった。 目標別にみると、知識・理解に関しては76.0%、思考・判断に関しては72.4%、意欲・関心65.5%、態度75.0%であった。 学生の到達度自己評価では、「自分なりに目標を達成した4.2」、「新しい知識など得ることができた4.4」、「専門分野について課題を検討する力を得た4.4」、「学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4」であった。この結果から、意欲を持ち学ぶことはでき、知識・理解の習得ができたと考ええる。 授業の質評価では、「テストの評価基準の明確さ4.5」、「課題の明確さ4.6」、「説明の理解しやすさ4.5」、「質問を受ける機会を設けていた4.4」であった。 学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を2～3回以上した学生が38.1%、課題以外に学習に取り組んだ学生が52.5%であった。 以上の結果より、概ね学習はおこなえていたと考えられる。学生からは、「わからないところをノートにまとめた」、「動画などを見て理解を深めた」などの意見がある一方、「復習してない」と回答している学生もあり、学習を主体的に取り組む学生と、取り組んでいない学生の学習量に差が出ていると考えられる。意欲関心については、学びを深めたいと意欲を持つ学生が多く、この先演習や実習まで持ち続けられるよう繋げていきたい。また、職業選択の参考にもなっているということで、引き続き臨床での看護師の姿や役割が見えるような授業の工夫を行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方や子どもの成長発達といった特徴を学んだ後、さらに健康障害をもつ子ども達の看護を学ぶための科目となっており、必修科目である。一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から目標はおおむね達成されており、学生からは「知識を確認、修正し、新たに得ることができた」「学んだことを実習で活かしたい」などの意見があり、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度、初の科目担当であったが、前任者の講義の流れを参考に組み立てをした。講義内容は教科書と毎回の学生の学び票を参考に、学生が理解しやすい言葉を選んだり、言葉の説明だけではわからないところは、動画やイラストなど視覚的に理解できるように工夫した。また、外部講師も依頼し、実際の現場の様子や、今学んでいる知識を現場でどう生かすかなどを具体的に講義した結果、学生から「理解しやすかった」などの意見や試験などの結果からも授業の進め方は概ね妥当だったと考える。 講義はオンライン講義であったため、学生の反応が講義中にわかりにくい状況であった。学生からも「コミュニケーション力や表現力を多構えることができた」3.8、と学生間のコミュニケーションや発表の機会が少なかったと考えられる。オンラインであっても、講義中に学生が発言したり、発表する機会を設けることが課題である。 授業の質評価において、概ね「説明は理解しやすいものであった」とした。講義形式のみでなく課題を与え個人で調べまとめ、発表する方法も取り入れたが、図書館の活用や学術データベースの利用、インターネットの利用をしなかったとした学生も22～58%いた。教科書レベルでの調べ学習となっていたことが予測されるため、社会の現状を知り、問題解決できる力を養えるよう、課題学習方法を検討する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の方法論を学ぶ本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については標準的レベルには達成できた。これを理想レベルに上げるため、わかりやすい講義の方法、内容の絞り込み等の検討を行い学生の理解度を上げていきたい。 授業では、病児や入院生活等をイメージしやすいように学生に好評だった視聴覚教材の活用を継続し、他の学生との話し合いの機会を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を引き続き設けていきたい。また、課題学習の方法も見直し、教科書以外の情報を得ながら、子どもをとりまく社会の現状を把握し、解決策を思考する力を養えるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が、今後の講義や実習に関連していることを自覚し講義に臨めるように意識して講義行った。 講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、事前課題を提示し、準備を整えて学習に臨める環境を整えた。また、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図を使用したり、配布資料だけでなくDVDなどの視聴覚教材や模型などを活用し、学生が妊産褥婦、新生児の生理的变化をイメージ化できるよう工夫した。 さらに、配布資料に教科書や参考文献のページを示し、講義後でも復習に取り組みやすくなることを意図した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は79点であり、80点以上の学生も50%以上みられ、理想的レベルを概ね60点以上として試験を作成し、再試対象は 5名であった。再試受験者は、ほぼ全員が標準レベルに達した。 DP別にみると、知識理解78%・思考判断78%・関心意欲78%であり、全て標準レベルを上回っていた。講義において教科書の範囲やや資料を提示し、繰り返し振り返ることが出来るように解説し、DVDや模型を活用しながら視覚からイメージできるよう工夫したことも、理解につながったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、必要な知識はほぼ得られていると思われ、内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価では、ほぼ100%の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。今後も日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるよう働きかけを行っていく必要があると考える。周産期はイメージすることが難しく、学習の難しさにつながっていることも推測される。しかし、周産期に関連する女性を取り巻く健康問題についての関心は高くなっている。今後も学生のニーズを把握しながら、より具体的な事例や聴覚教材を活用し、修得した知識を今後の講義につなげ、活用していけるように努めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な、知識理解や思考判断については概ね達成できた。女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目で、受講動機でも関心のある内容と回答した学生は半数程度であった。学生が、興味をもち、意欲を持って学習に取り組んでいるいけるよう、今後も学生のニーズを把握しながら身近なテーマとして取り組める教授方法を検討していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	既習の疾病学や形態機能学などの知識を応用し、成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けて看護活動を展開するための科目である。本科目は2年生前期の「成人看護学概論」を基盤に系統看護学として発展し、看護実践方法について疾病学と関連させながら教授し、健康障害が生体反応として、どのように生活者に影響を及ぼすのか、健康障害のメカニズムと特徴を踏まえながら健康支援に必要な看護ケアについて思考・判断ができることを意図している。コロナ禍において臨地実習の経験も少なく、疾患と健康障害によるイメージがつきにくい状況にある。そのため病態や症状のメカニズムを具体的に説明を加え、看護の方向性について確認しながら授業をすすめた。学生には毎回、授業の学びや気づき、質問を記載してもらいフィードバックを心掛けた。また、科目の対象範囲が広いため、単元ごとの評価を行い、学生の到達度を確認しながら授業をすすめた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	総合評価は平均点77.3点で昨年度より1.8点上回った。最高点は91点であり、理想とするレベル(概ね80点以上)には41.3%が到達できた。再試対象者2名も合格点に到達出来た。到達度自己評価においては平均3.7～4.4、また授業の質では平均3.9～4.4であった。授業評価では「まあまあ理解しやすいものであった」と昨年と同様に肯定的評価であった。主体的学習姿勢においては、あらかじめ授業計画を立案したり、予習や復習の時間については昨年より少し改善しているが、30%は全くしていない状況である。インターネット利用は58.6%、図書館の利用については35%が利用しており、これらは昨年より減少している。コロナ禍が続く中、学習時間や情報獲得にも少しマイナス影響が見受けられた。主体的学修が深まるよう継続的に検討する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は成人期にある慢性病を抱えている対象に対する看護実践の応用として専門教育科目に位置づけられている。必須科目であり、既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と対象に応じた看護支援の基本的な考え方など看護実践に向け、理解が深まることを求めている。受講動機では資格取得に必要と答えた学生は43.8%で、興味関心があると答えた学生は3.1%であった。必須科目であることから興味関心という動機は低いものの3年次に開始される各看護学実習の展開においては基盤となる科目であり、内容や位置づけは妥当と言える。 ②DP行動目標からみた内容の妥当性 本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOLを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は80%以上、「思考・判断」が77.6%で、昨年より向上している。單元ごとの小テストにより「知識」は一時的に評価できるが、実践応用に向けた「アセスメント力」（思考の深まり）の向上に向け、継続的にかかわっていくことが課題である。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないが、学生の知識の定着、思考・判断力の育成を継続的に進めて行く必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教材を使用し事象と関連づけながら具現化を図り講義を進めている。しかし、一方向の授業になりがちである。「自身で考えたことから導き出す」という段階が辿れるように時間を確保すること、学生の主体性を促し、「討議」できるような共同学習のあり方とそれに結び付くような学習教材、また学習課題の提示等、一連の課題について検討を加えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は2年次の前期科目である「成人看護学概論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学などを実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。対象の個性を理解し健康支援に求められる看護の方向性を見出すためには看護実践能力が必要とされる。中でも「アセスメント」として思考・判断力が求められるため主体的学習姿勢が継続的にできるように、また思考の方向性を確認しながら時間を確保し、授業の展開(構築)について再考し、改善を図りたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」98.8%、「資格取得に必要である」45.7%、「関心のある内容である」29.6%で、昨年度は関心のある内容である8.4%に比べ関心があると回答する学生が増えている。 ②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるよう質問をしながら講義展開を行っている。 ③今年度より事例を用いて、講義展開を取り入れた。手術により切除することでおこる機能障害の理解および看護を思考するように組み立てた。 ③講義では、周手術期の看護をイメージさせるために、手術室のDVDや呼吸訓練器具、ドレーンなど臨床で使用しているものを用いて学生が理解できるように工夫を加えた。特に3年次の演習での利活用を意識して、栄養評価、水分出納バランスの計算や簡単な事例で看護展開を一部取り入れ、思考するような展開とした。遠隔授業のため、Wi-Fi環境を考慮して、休憩を入れるなどした。 ④2名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、課題内容を3年次前期の「成人看護学演習」および後期の「成人急性期看護学実習」に活用できるような課題に変更した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目の登録者は107名であった。成績の平均値は、74.7（±11.7）昨年度とほぼ変わらない結果であった。本試の判定では、A判定（90+）27名（昨年度3名）、B判定（80-89）34名と昨年度に比べて秀の学生が増加した。C判定（70-79）21名、D判定（60-69）12名、E判定（59-）12名であった。12名は再試験にて履修した。標準的レベル（70点以上）に達した学生は77.6（昨年度79.1%）、理想的レベルに達した学生は57%（昨年度33.0%）と良い結果であった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識理解）は29.6/40点で得点率73.9（昨年73.9%）、DP2-1（思考判断）は、36.0/55点で65.4%（昨年度64.3%）、DP3-1（関心意欲）は4.5/5点（0-5点）で90.1（昨年度95.7%）であった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するのは難しいようである。 ③学生の「到達度自己評価」の平均値は4.1（3.5-4.3）であった。「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.3ともっとも高くみられた。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」3.0ともっとも低かった。 ④授業の質評価の平均値は4.1（4.3-4.0）であった。 ⑤学習量の評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、61.7%（昨年度67.5%）・79%（昨年度67.5%）であった。自由記述から、授業以外の課題以外に具体的に取り組んだ学習は、「復習した」「分からないことを調べた」と自主的に学習する学生もいた。しかし、予習・復習時間を見ると0回が39.5%と昨年度と変わらない傾向であった。 ⑥図書館の図書・雑誌利用率は、70.3%（昨年度24.1%）、学術データベース利用率54.3%（昨年度10.8%）、インターネット利用率91.4%（昨年度65.0%）で昨年度よりも図書館等の利用率が高かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる講義内容を含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果より、授業工夫の一定の成果が認められた。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見などをもとに検討を加える。 ②自由記述に分かりにくいという意見が聞かれた。既習の知識に戻りながら講義展開を行っている。事例の展開を取り入れ、知識の活用を体験しながら学べるようにしているが、今後の課題として検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。急性期における特に周手術期の看護について、系統別に講義展開をしている。そのため、範囲が広く、内容も難しいと考えられる。今後とも既習の知識を想起させながら、特に周手術期の看護の理解を深めるためにDVDや事例を用いながら学生がイメージできるように工夫をしていきたい。さらに3年次の演習や実習に応用できることを意識した課題を提示している。課題内容の説明方法の検討を加えていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・老年看護学3科目及び実習については、AACN Geriatric Nursing カリキュラムマップ、ANA Geriatric Nursing Scope of Practiceをベースに、今日的な老年医学、老年看護学、高齢社会の話題や技術を含めることを考慮して科目構成を毎年調整し、全体像を学生にも提示している。 ・前年度からの変更は、災害看護学を必修科目として履修予定であることから、災害における高齢者への対応を循環器疾患への予防や対応に重点をおいた。また、栄養については高齢者の低栄養や嚥下障害に対しては、演習課題を栄養評価から献立作成に変更するなどして、高齢者の生活や臨地実習を想定したものに変更した。 ・講義資料は2週間以上前に予めGoogleClassroomを通じて配布し、事前に資料と該当箇所の教科書を目を通すことを推奨した。毎時振替りフォームで得られる予習時間に関する回答は多い人で60分、10~30分程度の予習をする人が多く、0分と回答した人は3割程度となった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・定期試験のみの評価は平均66.7±11.15、最低35点、最高88点、課題提出や毎時の振り返りフォームの提出を含めた最終評価は、平均75.2±7.4、最低58、最高92であった。定期試験のみでみると、60点未満の学生が30名、最終評価では不合格者は2名、そのうち1名が再試験を受験し、合格した。最終評価では、秀1名、優28名、良40名、可34名となった。 ・課題では全般に非常に熱心に取り組まれていたが、筆記試験で成績が振るわない学生が多く、知識としての定着の薄さがやや目立った。 ・課題提出が7回あり、毎時相当の時間を要し、図書、インターネット、文献を資料として取り組まれたものと思われる。しかしながら、それらを利用したと回答したのは6~9割で、精度が低いと感じる。 ・学生による到達度評価の項目はすべての項目で4以上、授業の質についても4以上であった。評価の高さは、学生自身のコミットメントの高さによる成果でもあると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・この科目は必修科目で履修は当然であるが、専門基礎科目及び看護基礎科目の応用科目で、さらに看護師として勤務する将来において発展的に実践が求められる科目であることを授業開始に伝えており、毎時Googleformで得られる回答でも、いきいきとした気付きや学びの感想が書かれており、その意識付けは学生に伝わっているものと考ええる。 ・遠隔授業で進行し、毎時の振り替えリフォームに寄せられた質問に対しては、次回の授業で説明するだけでなく、時間を置かずにClassroom上でもフィードバックするなど対応した。 ・前述したように、能動的な学修活動が多く、単元の理解や課題での思考や展開が深く行われたこと、毎時の振り返りフォームへの充実した学びの記録から、全体に達成感が得られているものと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・各単元の講義で説明した内容と提示した資料を用いて、学生が課題に取り組むという方法で、能動的な学修活動を組み込んだ。課題への取り組みや成果には個人差はあるものの、概ね目標を達成しており、約2割の学生は非常に優れた結果であった。優れた学生は都度優れている傾向はあるものの、課題と筆記試験の最終評価で秀となった学生は1名と例年よりも少ない結果であった。 ・毎時振り返りフォームに書かれる最も印象に残ったこと、自分にとっての学びの記述は、自由記載であるにも関わらず、ほとんどすべての学生が50~100文字程度の記載があり、単元の目標に対しても適切であり、都度学修意欲や、意義の理解に働きかけることができたと考ええる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・全般に、学修意欲を高め、学修方法を提示し、課題に能動的に取り組むことで、老年看護における技術を修得することが達成されたと判断できる。 ・定期試験での成績が例年より振るわなかったため、記憶すべき老年看護の基礎的知識を示し、知識の定着を図る。 ・一部の学生が基礎看護学実習のため2週連続で欠席し、全体の学生も含めて課題の締切などの学修の進捗管理が予定通りにできなかった。単元の順序性は十分に検討を重ねた上でシラバスを構成しているが、当該学生の学修進度は意図しないものになった。 ・事前の実習経験がない学生では、本科目での学修効果やモチベーションには影響があったのではないかと気がかりである。教育の質、教員や大学への信頼を損ねる可能性がある。今後は同様の問題を回避するために、教務内容や日程は周到に議論、計画、準備され、管理される必要がある。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が96.8%、次に「資格取得に必要である」が38.7%となっている。「関心のある内容である」は24.2%であった。「単位数を確保する」は17.7%であった。昨年度は「関心のある内容である」が12.7%だったので、精神科領域の関心が高くなった可能性はあるが、理由は不明である。授業内で精神看護に関心を向けて受講できるようにメンタルヘルスに関する身近な話題やDVDの視聴などを取り入れ、授業への関心が高められるように工夫した。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎科目である。精神看護は、人との関わりがケアの基本となることを理解し、精神的援助のあり方を強調した。 ③能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について振り返らせ、こころの発達について理解を図った。 ④国家試験対策の一環として、国家試験問題の解説を課題にした。 ⑤授業は対面授業が実施できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で試験のみがリモート試験となったが支障はなかった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は68.8点であった。昨年度は70.8点であり、試験内容の難易度は変わっていないため理解度はやや低下傾向にある。再試対象は10名で、昨年度と同じ人数であった。55.3%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは13.6%であった。成績の内訳は、A（秀）が0%、B（優）が13.6%、C（良）が55.3%、D（可）が34.0%、不可が9.7%であった。学生の到達度自己評価は、3.4～4.3（平均3.95）で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は4.3、思考・判断に関する項目も4.0であった。レポート提出など課題に対してほとんどの学生が提出している点はよかった。図書館の利用率は100%で課題もあったせいかよく活用できていた。課題で忙しいという自由記述がある反面、授業の予習・復習を全くしない学生が30%近くいるので、学習の習慣化が問題となる学生が少なからず存在する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から88%の学生が標準的レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の平均は3.82であった。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.2で他の項目より低い値であったが、コロナ禍による感染防止の影響と思われる。学生の学習量は多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が30%存在するのは問題であるが、昨年の42%に比較すると改善されている。学生の意見として、「他教科を含め課題の量が多く、時間に余裕がない」「課題で精いっぱい」という意見が出ており、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。課題はしているが、課題以外の学習時間を確保できている学生は多いとは言えず学習習慣の定着ができていない可能性がある。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。できるだけ精神疾患を持つ人やその家族の状況が想像できるように、書籍を読み感想を書くことを昨年に引き続き取り入れた。新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の利用が制限されていたが昨年よりは活用できる時間が増え、精神疾患患者やその家族の心情の理解が進んだように思う。今後も事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を続けたい。 コロナ前は、学生の私語が多く、注意を重ねなくてはならなかったが、全員がマスクを着用していたので私語は改善されてよかった。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が98.4%、次に「資格取得に必要である」が49.2%となっている。「関心のある内容である」は33.3%であった。関心度は昨年の9.1%と比較し上昇している。授業内で精神科看護に関心を向けて受講できるように、書籍を読んでもらっているが効果が出ているとも考えられる。本科目は実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。 ②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。 ③精神障害は、イメージがしにくいいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージが強調され学生に無駄に恐怖心を与えるため使用せず、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。 ④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。 ⑤新型コロナウイルス感染症の影響で一部リモート授業になったため、授業資料は早めに提示し、学生の授業準備が支障なくできるように配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.2点であり、昨年より3.2ポイント上昇し、例年と同程度であった。再試対象は昨年は7名であったが今年度は3名であった。 85.6%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは51.9%であった。成績の内訳は、A（秀）が4.8%、B（優）が47.0%、C（良）が33.7%、D（可）が11.5%、不可が2.9%であった。昨年に比べると、A（秀）、B（優）の割合が増えており達成度が上昇している。 学生の到達度自己評価の平均は4.12でほぼ達成されたと思われる。学習量は、30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が44%存在する反面、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやっていた。しかし、内容が不足している学生もあり、指導を要した。精神関連の書籍を読む課題を出していたので、図書館の利用は80%であった国家試験に関する課題を組み入れ、ポートフォリオで整理させたことは試験対策に役立ったのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生ははじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは、91.4%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	精神看護学概論では何をしようかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、質問も増え、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が1/3程度存在するため学習習慣が身に付いていない層が存在するため、更なる主体的な学習を期待する。授業以外の学習に取り組んでいない理由としてとして、「他の科目を含め課題が忙しく、講義内容の勉強はできなかった」という意見が多く出ているが、個人差があると考ええる。コロナ禍で一部がリモート授業となったが、授業以外に学習に取り組んだ学生は、「講義で学んだ疾患の動画を見た」「課題以外でも精神障害者が書いた本を読んだ」「わからないことは調べた」など意欲的に学習を進めているできている。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることは引き続き課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目である。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎的知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。新型コロナウィルス感染症の影響で一部がリモート授業になり、十分な理解が図られていない可能性もある。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはいけない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人の気持ちに寄り添い、看護の応用・展開につながるようにしなくてはいけないと考える。学習の習慣が身についておらず、勉強の仕方がわからない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護マネジメント総論	2	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、必修科目で、医療・看護という無形サービスを患者に効率的・効率的に提供し、質の高い医療を組織で展開するための基本的知識を学ぶ科目である。学生は本来なら1年次に早期看護実習と基礎看護学実習Ⅰ、2年次前期に基礎看護学実習Ⅱで病院実習を経験し、この経験によって医療や看護がどのように臨床現場で実践されているかを学ぶ機会が得られる。しかし本学生は1年次の実習は学内実習となり、2年次の実習経験者も制限された時間内での臨地実習経験しかなく、病院組織をイメージすることは困難な状況であると判断した。このため、厚生労働省や日本看護協会出典の図・表や具体事例などを多く活用し、上記のような準備状態の学生でも病院組織がイメージできるように工夫を行い、看護マネジメントの意味、目的等の理解に努めた。またこのような組織による管理運営が、現在の医療現場に必要な背景である社会保障問題にもつなげ、保健・福祉等に関する既習の知識を活用できるように配慮した。この授業にとって重要なことは、質の高い看護を提供するためには組織マネジメントが必要であることを学生が理解できることであるため、学生が最もイメージしやすい「医療安全管理（事故防止）」を具体事例にし、病院組織の概要やその役割、そしてこのような組織の中での看護の役割へと授業を展開し、イメージができるように心掛け、看護マネジメントの基礎知識の修得を図った。また「医療安全」の領域は昨今の医療現場の実情を鑑み国家試験の出題数も増加傾向であるため、このような視点にも配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験60%、レポート30%、レポート外の提出10%による総合評価としている。最終成績の平均値は75±11点（最高95点、最低35点）で昨年度のテキスト使用可によるオンライン試験の70.1±9.80点よりも向上している。成績の内訳はも、秀8名(8%)、優33名(32%)、良35名(34%)、可21名(20%)、不可6名(6%)で、昨年度（秀3名、優14名、良36名、可33名、不可10名）との比較でも向上している。また再試験では全員が合格判定を受け再履修者はいない。思考判断を問うレポート課題は、授業の学びを活用して「医療事故防止管理」を視点に記述を行ってもらった。評価はルーブリック評価を活用し、評価内容は事前に提示し自己評価が可能な環境をもうけ、全員期限内に提出を行い、平均は21.2点であった。しかし最高30点、最低5点と既習の知識を活用して記述できる学生とできない学生の二極化を示唆する結果ではあった。意欲関心に関しては、今回は遠隔授業であったためフォームで感想や質問の回答を求めることにした。全ての回において全学生がフォームに本日の学びを記述し、常に1割程度の学生は質問を記述しており、授業に真摯に向き合っていたと考える。また図書館の利用者は少ないものの、インターネットの活用は多くの学生が行っており、半数の学生は予習・復習を行っている。学生による到達度自己評価においては「（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（4.5）」「（4）自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた（4.4）」「（5）自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた（4.4）」「（6）自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいという意欲をもつことができた（4.4）」「（9）職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた（4.5）」と学生の高い達成感覚を伺うことができる。以上より全般的な成績は昨年度よりも向上し、思考や意欲等にも効果を認めていると判断し上記の評価となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はカリキュラムマップ上、基礎看護学領域の履修が終了し、各領域の履修開始前後の2年次後期に行われる。3年次の長期各論実習を鑑み、この時期に組織における看護を思考する看護マネジメント総論があることは位置づけとしては妥当的と考える。このためDPに則って、「1. 看護職が看護活動を通して人々の健康や幸福に効果的・効率的・創造的に貢献できるための、看護マネジメントの基本的な考え方を身につけることができる。」「2. 看護マネジメントの基本を学ぶなかで、ヒト・モノ・カネ・時間・情報という資源を活用し、効果的・効率的に看護をマネジメントするための思考力を高めることができる。」「3. 医療・看護の質の維持・向上のためには、多様性を踏まえた多職種との連携・協働のしくみづくりが必須であることを理解し、まずはグループメンバーで協力し課題を解決することができる。」「4. 療養者と職員の人間性を尊重できる組織マネジメントを理解しようという態度を持ち、責任と倫理感に基づいたセルフマネジメントを行うことができる。」という行動目標を掲げ、授業の構築を行っている。本科目の学習到達度の自己評価は、オンラインによる講義授業であったため、(7)の技術や(8)のコミュニケーション自己評価はやや低いものの、専門性に関連した課題を検討する力の取得、的確な判断力、意欲、職業倫理やルール遵守、職業選択においては、達成度の自己評価は4.1以上であり、専門科目として知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進行については、授業の冒頭は前週の学生からの感想の紹介を通して復習を行い、また質問への回答を行ってから当日の課題に入るようにし、学びの振り返りを行う時間を設けるようにした。このような学生との交流時は、臨床における具体的な事例を活用することで学生がイメージ化を図れるように配慮した。その結果、学生の自由コメントにも「看護師としての心構えについて考えることができた」「授業がわかりやすかった」「自分が今後何をすべきかを学ぶことができた」「組織で働くことのメリットが理解できた」などを認め、学生の理解に貢献できたと判断する。授業の質評価においても殆どの評価指標の平均値が4.5前後であり高評価であった。これは、上記のような質問への対応に加え、国の政策等や看護マネジメント、診療報酬等の理解ができるよう、テキストだけでなく、厚生労働省等の資料を可能な限りインターネットを活用して取得し説明時に使用するなどの工夫を行った結果と考える。次年度もこのように少しでも学生が理解できる工夫を継続しながら、質の高い医療を提供する方略を学生が思考できるよう支援していきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を学生が学ぶにあたり、COVID-19の影響で臨地実習経験が殆どなく、病院組織をイメージすることが困難な学生に配慮し、厚生労働省等の図・表、具体事例などを多く活用し、またフォームを活用して学生の感想や本日の学び、質問の記述を行わせることで、学生が学びを整理できるよう工夫を行いながら進めた。その結果、成績の平均値は75±11点と、昨年度よりも向上し、秀を取得した学生も8名認め、再履修者もいなかった。遠隔授業への配慮として開始したフォームでの学びや質問も、全ての回において全学生が記述し、常に1割程度の学生は質問を記述しており、授業に真摯に向き合っていたと考える。学生による到達度自己評価においても「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(4.5)」「(4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた(4.4)」「(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた(4.4)」「(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいという意欲をもつことができた(4.4)」「(9)職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた(4.5)」と学生の達成感覚も高いものであった。また学生の自由コメントにも「組織で働くことのメリットが理解できた」などの授業を評価するコメントを複数認め、授業の質評価においても殆どの評価指標の平均値が4.5前後であり高評価であった。以上により全般的な成績は昨年度よりも向上しており、また思考や意欲等にも効果を認めているため、ある一定の授業の質を担保することができ、シラバスにおける行動目標は概ね達成できたと判断する。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年次看護総合演習は4年次前期・後期の必修科目であり、4年間のまとめの科目である。学生は、1年次から3年次にかけて看護実践の基礎や応用の各科目を履修し、講義や実習を履修してきている。既習の知識・技術をもとに、さらに看護学の知識・技術・態度について学習を行い、「看護総合実習」の科目に繋ぎ、実習の学びや看護観をまとめる。そのため、学生の主体的学習を中心に学習を行うようにしている。 2021年度は基礎看護学分野の看護技術において、学生6名を担当した。感染予防対策として、オンラインでミーティングや面談を実施し、実習計画を立案し、看護技術についての課題学習を行った。 「看護総合実習」の計画をしていたが、直前に臨地実習施設での実習が困難となり、学内実習で代替し、課題学習と実習室での対面実習を実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生は、看護技術に関する主体的学習および課題レポートの作成に取り組むことができた。また、「看護総合実習」では、学内実習室で技術演習を行った。成績は全員が合格基準に達した。 授業アンケートによる評価結果は、到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「新たな知識」「事象を理解する視点や考え方」「課題検討能力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つ」「的確に判断する力」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目は、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と肯定的な回答割合が100%であった。 また、学習量の評価では、1回に30分程度以上の予習・復習は100%であった。大学に入構できない期間があったが、図書館の利用は約67%、インターネットのホームページ検索の利用は83%であった。各自の学習成果のまとめやグループでの意見交換を主体的に行っており、学習成果が得られたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、カリキュラムマップにおいては、看護の統合に位置付けられ、思考・判断(DP-2)、意欲関心(DP-3)、態度(DP4)を達成目標としている。看護技術の学習の実際には、実践に必要な知識・理解(DP-1)の学習や看護技術の演習(技能表現)なども必要であると考え、これは「看護総合実習」の学習内容として位置づけられる。学生の到達度自己評価の結果や課題レポートの内容などから、これらの目標は達成していると考えられる。また、学生は演習に関する自己学習や発表、意見交換などにより、思考判断、意欲関心、態度について修得し達成できていると考えられる。カリキュラムマップにおける位置づけは看護実践の統合、発展の段階として考えられ、内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は、前期に看護総合実習で学びたいテーマを各自で考え、看護技術について主体的に学習することとした。臨地実習に向けて実習計画を作成していたが、感染状況によって、臨地実習が困難となったため、後期に学内での対面実習を行うことにした。また、学内実習では、複数の看護技術について課題レポートの作成と提出を求め、実習室で看護技術を実践する実習とした。実習後は、実習のまとめと発表、意見交換を行い、看護観や倫理について学ぶ機会とした。学生の授業評価では、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的な回答があり、また、「国家試験対策になった」という意見もあり、学習成果が得られたと考えられる。次年度の改善策として、前期は臨地実習に向けて実習計画と学習を進め、臨地実習ができない場合は、学内実習にすることを計画しておく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護技術に関する学内実習や課題レポートの作成などから、授業の目標は、達成できたと考えられる。 学生の看護実践能力を高めるためには、コロナ禍での臨地実習の実施が課題であり、今後は「看護総合演習」の科目と「看護総合実習」の科目を効果的に連携して、学生の主体的な学習への支援を継続する。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・コロナ禍により大学生生活に制約があったことから、本年度も昨年度に引き続き、全体のテーマを予め指定し、その中で学生が分担、担当して調べ学習、成果物にまとめることとした。高齢者の薬物療法を全体のテーマとし、薬物動態や高齢者特有の有害事象や薬物療法の支援についてグラフィックレコーディングを用いてプレゼンテーション、論文集制作をおこなった。 ・総合演習の内容を受けて、高齢者の薬物療法を中心に、看護総合実習では入院患者の薬物療法について発展的に実習を計画し、薬剤師からの講義を受け、さらに学修を深めることにつなげることができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・予め提示した評価表に従って評価した。高齢者の薬物療法に関する調べ学習は、就職活動や国家試験対策を並行して進めながら、学生間で担当箇所と作業日程を管理しながら、当初予定していた日程で、一人当たり4～5の担当箇所について完遂する事ができた。最終的には、教員の出典と内容のチェック、編集作業を経て全体で80ページの冊子となった。 ・出典の記載などに少しの問題はあったが、資料の収集、資料の理解、情報の整理が行われ、かつイラストの挿絵を追加して、高齢者の薬物療法に活用できる資料となった。 ・成績については対象が5名であり詳細には記載しないが、優または秀という結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・高齢者の薬物療法に関する調べ学修、論文作成、プレゼンテーション、グラフィックレコーディングのいずれも看護学生としての知識の統合、看護師として発展できるスキルであり、4年生看護総合演習として妥当であったと考える。 ・学生の到達度評価は、全般に4点であった。与えられたテーマであったが、学生個々に、また協力しあって主体的、積極的に取り組み、成果が得られたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・国家試験対策の勉強会をオンラインで開始しつつ、薬物療法についての調べ学修、グラフィックレコーディングを用いたプレゼンテーション活動は、前期でそれぞれ5回ほどあり、準備に要した時間も含めてかなりの時間を費やしたと思われる。 ・これによって、夏季の臨地での総合実習、調べ学習の論文化、国家試験対策の学修は心理的にも余裕を持って臨めたことは非常に評価できる。 ・オンライン、遠隔、図書館グループ学習室、Switch、教室など学修内容に応じて、様々な大学設備を効果的に計画的に活用できたことはコロナ禍におけるメリットでもあり、様々なスタイルで学ぶ機会を得ることができた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・コロナ禍における学修の停滞を阻止することができた点は良かったが、学生の興味関心に沿って計画された演習実習とならなかったため、今後は本来の総合演習の形を取りたいと考える。 ・学生にとって学修活動量も多く、臨地実習で患者や実習指導者とのかわりが持てたことや、グラフィックレコーディングなど新しい取り組み、スキルを修得でき、成果物が残せたこともあり、概ね満足であったとの回答となったと考える。 ・総合実習施設に小倉第一病院を追加したことにより、演習・実習のテーマを、透析患者、フットケア、重症虚血肢、シャント管理、外国人看護師との協働などの幅広いテーマを設定することが可能となるため、自身の研究領域に近い高齢者看護での学修や演習を強化していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間の学びの集大成と位置づけられた当該科目について、「看護総合実習(看護管理)」を前提に、最高学年としての4年生の自主的・主体的学習活動を軸にゼミナールを展開した。 4月、3年後期からの選抜プロセスを経て配置された学生5名を通常通り受け入れた。しかし、4月末には5名中1名がメンタル不調を理由にゼミ活動を離脱、以後、当該学生については、卒業要件である実習も含めて、他の学生とは概ね別行動をとることとなった。さらに9月、他のゼミから新たな学生1名を受け入れることとなった。通年科目である「看護総合演習」の学習到達度をどう判断・評価するか、判定基準の設定が非常に難しかった。続く「看護総合実習(看護管理)」の準備・実施においても、各学生の学習レディネスや参加の背景には異なる点が多くあり、ゼミ生全体としての学びの共有は極めて難しかった。 学生は、当該科目の受講動機を全員「必修科目である」(100%)とし、うち1名は「教員に勧められた」(25.0%)と回答していた。「教員に勧められた」の選択は過去には一度もなく、学生の能動的姿勢には課題を感じる結果であった。一方、ゼミの選択については、「シラバスの記載を参考にした(50.0%)／参考にしなかった(50.0%)」と2分されており、「参考にしなかった」学生については、「あらかじめ授業の計画を立てた」(75.0%)や「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」(100%)など、主体的な学習姿勢も窺えた。 演習では、「看護管理」の視点で俯瞰的に事象を捉える・考える目的で、学生に「看護管理」に係る新たな知識・関連法規、組織管理、医療安全管理、感染管理等の各種専門知識への「調べ学習」を求めている。これら課題に取り組むについては、学生の主体的・積極的な学習姿勢・行動を期待したいところである。昨年度、緊急事態宣言下のゼミ活動は「遠隔」で行わざるをえなかったが、今年度は、コロナ禍とはいえ「対面・遠隔」のハイフレックス方式でゼミを実施した。学内への入構が許可されたことで、学生の図書館利用(75.0%)、学術データベース検索(50.0%)及びインターネット検索(75.0%)の利用率は大幅に向上し、着実に「看護総合実習」に向けた準備を整えることができた。また、学生個々の学習への興味・関心が高まることで、ゼミ中の教員の質問に的確に答えたり、根拠に基づく説明ができた、社会人基礎力、特に「考え抜く力(課題発見力、計画力、想像力)」や「チームで働く力(発信力、傾聴力、状況把握力、規律性)」の強化に繋げることができたと考えている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価について、項目(1)「自分なりの目標を達成した」(4.3/4.0～2.9/3.0)は、学部、学科のそれも含めて昨年度を大きく上回っていた。項目(2)～(10)のうち、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5/4.5～3.4/5.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.5/4.5～3.0/3.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.5/4.5～3.1/3.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.5/4.5～2.9/3.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(4.5/4.5～3.1/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/4.5～2.9/3.0)の6項目は、平均値と中央値が同値。「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3/4.5～2.7/3.0)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.3/4.5～3.1/4.0)、「職業選択の参考になった」(4.3/4.5～3.1/3.0)の3項目についても、平均値が中央値をやや下回っているもの、いずれも昨年度を1ポイント以上上回っており、また、いずれも学部・学科のそれに優る高いポイントであった。緊急事態宣言下、臨地での実習を全て中止せざるを得なかった昨年度の反省をもとに、コロナ禍といえども、当該実習の意義を理解し、受け入れに前向きな病院施設を新規に開拓したうえで、何とか臨地での実習を実現しようとした試み・努力が、今年度の学生満足度及び到達度自己評価の結果に繋がったと考えている。 「看護総合実習」を原則「臨地」で行うとした今回、ゼミも「対面」でのグループ学習活動を中心に、適時「遠隔」を組み入れながら展開した。看護総合演習の達成度評価は、通常、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)の評価を対象としている。具体的な評価割合は、実習事前準備として個人が担当した「調べ学習」の成果：情報提供資料(40%)、「対面」または「遠隔」でのゼミへの参加度・貢献度・プレゼンテーション力(発信力、説明力、主張力、論理性、積極性等)(20%)、実習終了後に提出された報告レポート(20%)及びKYTトレーニングへの参加度・貢献度(20%)とした。 学生は「調べ学習」の際、図書館利用(75%)、学術データベース検索(50%)、インターネット検索(75%)と、図書館及びインターネット検索を利用してゼミの準備を進めていた。インターネット検索を行う場合、まずは収集しようとする情報発信元の信頼性の確保が重要であり、情報の信頼性、正確性、妥当性を検証しつつ情報収集する必要がある。この点については、事前に情報収集時の留意点を説明していたこともあり、信頼性・妥当性のある情報収集ができていた。最初のうち、学生は収集した情報を単にコピペしたり、転記したりするにとどまっていたが、徐々に、求められていることは何かを理解し、テーマに沿った内容の要約や解釈・判断した結果を「資料」として再構成することができるようになっていった。学びを深化させるために自ら「問い」をもつこと、「考える」こと、「なぜ」を探究すること等々、ゼミ生の多くは、主体的学習者としての在り方(意識・意欲・姿勢・態度・行動力)を理解し、身につけることができたと考え、 4月以降、ゼミの学習活動に参加した5名の学生については、最終評価点は平均85.8±6.46点、最高91点、最低75点であった。評価の内訳は、秀2名、優2名、良1名で、6名中5名の学生が、通常の学修過程を経て履修を修了した。なお、4月以降、ゼミの学習活動を途中離脱した1名については、10月下旬から別メニューで演習を行った。体調不良により臨地実習も不参加となったため、そのことも考慮に入れつつ、看護師国家試験受験終了後の2月中旬に、一人「学内」で補習実習を実施、履修を修了した。当該学生の成績評価は「可」であった。 以上をふまえ、到達度評価については、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)の全体を通して、全て「やや達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	前述のとおり、今期ゼミ生の受講動機は、「必修科目である」(100%)と「教員に勧められた」(25.0%)の2項目であった。到達度自己評価は、「自分なりの目標を達成した」(4.3/4.0), 「知識を確認, 修正したり, 新たに得ることができた」(4.5/4.5), 「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.5/4.5), 「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.5/4.5), 「自分が学ぼうとしている専門分野において, 的確に判断する力を得ることができた」(4.5/4.5), 「自分が学ぼうとしている専門分野について, 学びを深めたいと意欲をもつことができた」(4.5/4.5), 「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/4.5), 「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3/4.5), 「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.3/4.5), 「職業選択の参考になった」(4.3/4.5)と、いずれも昨年度を大きく上回っており、また、いずれもが学部・学科のそれに優る高い自己評価であった。 当該科目の最終評価について、当初よりゼミ活動に参加してきた5名の評価は、平均85.8±6.46点、最高91点、最低75点であった。一方、メンタル不調を理由に、4月以降ゼミを途中離脱した学生1名については、別メニューで演習を進めることとなり、期間、内容の点での不十分さは否めず、最終評価は「可」であった。全体として、6名中4名が理想レベル、他の2人も標準レベルには達しており、学習内容は妥当であったと考える。学生の自由記述には、「看護管理について学びを深めた」「実習に必要な知識を身につけた」「国試に向けての勉強になった」の3つの意見が記載されているのみであった。以上より、内容的妥当性はありと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ生の多くが各論実習を残していたこともあり、4月以降6月上旬まで、ゼミとしての活動は、変則的なスケジュールで進めていった。コロナ禍にあるとはいえ、昨年度と異なり、今年度は「対面」を基本にゼミを開催できること、これは何よりの“強み”であった。 ゼミの中核でもある「調べ学習」も、図書館利用(75%), インターネットのHP検索(75%), 学術データベース検索(25%)と、昨年は専らインターネットのHP検索が主流であったが、学内への入構が可能なことで、図書館利用が大幅に増えていた。そのせいか、学生がプレゼン時に提示する資料の信頼性・内容妥当性が確保でき、安心できた。 ゼミ全般及びその後の実習も含めて、学生の興味関心は高かった。積極的・主体的に学ぶ姿勢も見てとれた。チームへの協力度、規律性、自身に課せられた課題の処理、役割遂行力も優れていた。昨年度に比較して、多くは4年間の成長を感じさせてくれる学生達であった。中には、4月末からずっとメンタル不調を理由にグループ学習に参加していない。その後も卒業まで、基本、単独での行動が中心の学生もいた。9月には他のゼミからの転入者も加わり、今年度は、かなり複雑なゼミ運営となっていた。結果、チームとしての纏まりをつくることが、非常に難しかった。学生が配置された理由・背景を考えると、今年度は致し方なかったかとも思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	次年度に向けては、以下を課題としてゼミに取り組みたい。 ①学生の学修レディネスを的確に把握する。併せて、社会人基礎力向上に向けた各個人の課題を明確にする。 ②主体的・積極的な「学習」への取り組みを促す。 ③学生の自己肯定感が高まるよう支援する(認める、褒める)。 ④学生がグループ学習活動に協働・連携して取り組めるように、相互に他者への気遣い、優しさが体現できるチームづくりをする。 ⑤学生が自ら「問い」を発し、「思考」し、その考えを「主張・発信」に繋げ、皆と「共有」できるような建設的な意見交換の場と雰囲気づくりに努力する。 ⑥最終学年生として、看護職(=対人サービス)を目指す者として、個々に「自覚」と責任ある「行動」を身につけてもらう。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が16.7%、「関心のある内容である」は16.7%、「単位数を確保する」が16.7%であった。精神看護領域は、第1希望の領域ではなかったかもしれないが、それなりに関心はあり、準備性を持って受講していると思われる。 ②看護研究演習を選択しない学生がほとんどなので、本科目は4年間の集大成の役割をする科目となる。研究演習の代わりとなるようなものに仕上げることを目標とした。授業形態は、対面授業を基本としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、リモート授業に変更されたときはクラスルームにおけるMeetを活用し授業を進めた。 ③リモート授業ではMeetのグループを作成し主体的に進められるように支援した。後半は個別指導中心の丁寧な授業を進めた。学生のテーマを大切にしながらフィードバックを行い効果的な指導ができるように心がけた。今年度は臨地実習ができなかったため、全員が文献研究に取り組んだ。 ④卒業年度になるため社会人としての基礎知識やマナー等にも留意して演習を進めた。 ⑤本科目と各論実習、就職活動、看護師国家試験の準備が重なり、学生は負担が大きいですがすべてがスムーズに進むように、スケジュールを提示し、微調整をしながら進めた。 ⑥授業時間だけでなく、メールやMeetを活用して、学習の進行を助けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績評価の平均値は82.3点であった。成績の内訳は、A（秀）が16.6%、B（優）が66.6%、C（良）が16.6%であった。学生の到達度自己評価の平均は、3.8で肯定的な回答であった。図書館、データベース、インターネット等を授業の課題のために全員が利用している。文献クリティークの取り組み状況や、ディスカッションの内容、およびレポートの内容は、学習を反映したものとなっていた。また、学習量については十分な時間をかけていた。演習が進む経過から、テーマに対する意欲、関心の高まりが感じられた。6名の就活状況によってレポート作成に取り組む期間は、個々違ったが、それぞれが努力し全体を通して目標は達成されたと考える。ゼミ生全員が最後まで努力し、レポートの完成、発表資料作成できており、それぞれが研究や発表を頑張ったようであった。学生の自由記述では「国試との両立が大変だった」とあり、模試の結果を考慮しながら指導が必要と考える。しかし、最後の総まとめの授業なので、できるだけ思考の深まりができるように指導方法を工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は看護学科4年間における学習成果の集大成として看護実践の統合科目としての位置づけである。学生の自己評価、学習に取り組む姿勢、成績が高かったことから、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量は、十分確保されていたと考える。図書館の利用については、「授業を通して図書・雑誌を利用した」「CiNiiなど学術データベースを検索し利用した」の割合は100%となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の利用が制限されていたが、利用できる期間に集中して活用したと思われる。学生は、授業中のディスカッションや個別指導された内容などについて次回の授業までに調べて考察することができていた。また、授業時間以外に必要時はメールやMeetで指導するなど、学生のモチベーションを下げることなく、学習を進めることができた。結果、学生の主体的・自発的な学習態度は引き出すことができたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	4年次開講の科目であり、各論実習、就職活動、看護師国家試験の学習と同時並行で行わなければならないため、学生にとってテーマに取り組む時間の確保が難しいことが予想された。加えて新型コロナウイルス感染症の影響で予定が立てづらく、これを補うために、学生それぞれの進行に合わせて微調整をしながら個別指導を進めた。このことは学生の負担軽減になるとともに、テーマについて深く思考できることにつながり、学生の自己評価を見ても効果的であったと考えられる。本科目の履修は学生にとって負担感があると思われるが、4年間の集大成として学びの獲得は大きいので、意欲的に取り組めるように工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた演習科目である。前期に基本的知識の確認及び抄読会を実施し、実習テーマの設定、実習計画書の作成指導を行う。事後は、各自レポートの作成指導を行った。今年度は、全て対面授業で実施した。 受講動機は、「必修科目である」100.0%、「資格取得」12.5%であった。開講時は、関心を持つ学生がいなかったため、学生のモチベーションを高めるために、意見交換を増やし、学生の問題意識を高めるよう工夫した。 また、学生が達成感を得られるよう、実習施設の指導保健師と、学生に実践可能な実習内容の検討を重ねた。 演習では学生の主体性を尊重し、実習課題を達成するための計画を立案するための知識学習や情報収集について、また、計画した内容を実践するために準備すべきことについて、学生自身が行動できるよう適宜助言を行い、励ますよう努めた。 看護総合実習で計画した看護方法及び技術について、文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。グループで協力し成果物を作成するようにし、グループへの貢献度を高めるよう工夫した。演習への参加態度ではグループワーク等において全員が意見を発言できた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	客観評価は、DP2（平均90.0）、DP3（平均4.8）DP4（平均5.0）であった。 学生の達成度自己評価は、「自分なりの目標を達成した」（平均4.8、中央5.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」（平均4.6、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（平均4.8、中央5.0）「自分が学ぼうとしている分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.8、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」（平均4.6、中央5.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.4、中央5.0）、「職業選択の参考になった」、（平均4.6、中央5.0）。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」90%、「学術データベースの活用」90%、「インターネットやHP」90%の学生が利用していた。「学習量の評価」では、全員が授業の準備及び復習を行っていた。また、8名中5名はノートを作成したり、授業の課題以外に学習に取り組んだと回答した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」100.0%、「資格取得に必要である」12.5%であった。 学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」（平均4.8、中央5.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（平均4.6、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.9、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を身に着けることができた」（平均4.6、中央5.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.4、中央5.0）、「職業選択の参考になった」（平均4.6、中央5.0）であった。 「受講動機」「学習到達度の自己評価」から、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」（平均4.6、中央5.0）、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」（平均4.8、中央5.0）、「説明は理解しやすいものであった」（平均4.6、中央5.0）、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（平均4.8、中央5.0）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」（平均4.9、中央5.0）であった。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」90%、「学術データベースの活用」90%、「インターネットやHP」90%の学生が利用していた。「学習量の評価」では、全員が授業の準備及び復習を行っていた。また、8名中5名はノートを作成したり、授業の課題以外に学習に取り組んだと回答した。 学生の学ぶ意欲とモチベーションを高めつつ、理解度を教員と学生間とで確認し合う時間をその都度確保し、疑問を残して次回に進まないように配慮した。その結果、改善されたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	前年度の遠隔授業では、学生の状況を十分につかむことができず、達成度、授業の質評価が全体的に低下したため、今年度は、探索型授業である本科目は対面授業で進めることにした。 その結果、学生の理解状況を把握しながら、適宜学生間の意見交換を促したり、助言をするなど、学生主体の授業を進めることができた。また、成果物による客観評価及び実習指導者からも高い評価を得られ、学生は達成感を高めることができた。 達成状況は全体的に改善された。今後も、学生の意欲とモチベーションを高め、個々の自主性を尊重した授業と個別指導が課題である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習は必修科目であり、自己の課題を探究および課題の解決を目指し、レポートを作成することなどが重視されている。今回の受講動機をみると「必修科目である」が85.7%「資格取得に必要である」が57.1%と高かった。学生は、この科目について、必修科目や資格取得に必要と認識し受講している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績としては、91.4点（±82.9）であった。学生は「秀」と「優」の成績を修めている。 DP目標別達成度は、「思考判断」が89.0%、「関心意欲」が96.9%、態度が93.6%で、達成度のレベルを80%とすると達成したと考える。 「学生の到達度自己評価」項目の平均値は3.7～4.3であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科「専門教育科目」看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられた必修科目である。個々の学生の「看護総合実習」時期は異なるが、そういう点も配慮しながら進めている。カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的には妥当であるとする。 ②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、すべての項目が達成されている。内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題は無いとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この授業、「授業の質」に対する学生の評価は、3.6～4.4で個人差がみられた。 学生の「学習量の評価」は、準備および復習ともに個人差がみられたが、6回以上の準備と復習を行っていた学生が6・7割いた。 学生の「情報利用」、85%の学生は、シラバス活用し、計画を立て履修していた。 学生の「図書館の利用」について、学生はレポートを作成するために、図書やデータベースやインターネットなど全ての項目を全員が活用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられ、総括的な科目である。各学生のレポート作成についての支援は、各学生の実習時期が異なるため、学生の実習後に個別指導の機会をとって進めた。学生の自由記述にもその点は高評価であった。次年度も個々の学生の取り組みの進行状況を把握しながら指導を進めていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミ学生は、今までのカリキュラムにおいて、「患者と看護師」という視点から看護を学ぶ機会が非常に多かった。各領域の看護学実習においても、この学びを軸に実習を行っている。しかし、看護総合演習（看護管理）は、このような視点から離れ、病院全体の質やチーム医療という視点で看護を考えることが求められる。このためこの思考にスムーズに変えることができるよう支援することが必要となる。ゼミの決定においては学生の希望を聴取しているため、学生はある程度、看護管理に興味があることはうかがえる（受講動機において50％は関心のある内容を選択している）。しかし学生はCOVID-19の影響で2年次の基礎看護学実習Ⅱは学内実習、3年次の各領域実習の殆ども学内実習を余儀なくされ、医療従事者間の協働やルール遵守に基づいた看護実践などを体感する機会は乏しく、このような状況下で病院組織を理解することは非常に困難であると推察した。よって、①「集中講義 看護マネジメント論」の授業で学生が実習に行く部門の事例を取り上げ理解が深まるよう授業内容を工夫する。②集中講義や総合演習内で病院組織やチーム医療のイメージ化が図れるよう動画を活用する。③週に1回はゼミを定期開催し、目標を設定しながら学びを深める。④実習先である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「病棟」全てを全員が学習するのは負担が大きくなるため、ゼミメンバー6人で主要担当部門を分け、自身の部門の学習を中心に行い、他のメンバーに自身の学びを教授する形で、チームダイナミクスの重要性を体感させていく。⑤看護管理に関する各部門の文献検討から、病院組織が現在抱える課題抽出を支援する。という視点で実習前は総合看護演習を行い、実習終了後は各担当部門での学びをレポートに記載することを支援し、最終的には全員が卒業レポートを記載でき、実習報告書を完成させることができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生は4月～8月下旬まで、各論実習や就職活動等との調整を図りながらも、「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「病棟」の看護管理学習を進め、週に1回はゼミを定期開催し、役割分担しながら自己の課題に取り組み準備を整えていた。各自が行ってきた課題はゼミで他のメンバーにプレゼンテーションを行い、質問等を繰り返しながらグループダイナミクスを発揮して修正を重ねていた。殆どの学生は予習・復習を行うとともに、全員が図書館・情報検索・インターネット等を活用し準備を行っていた。その結果、病院施設と調整していた実習計画案報告日に、資料を整え報告することができ、また学生が作成した実習案は病院施設側からも受領され、予定通り病院での総合実習を行うことができた。 総合演習の評価に関しては、①参加、②話す・聞く（素直に意見を言い、積極的に聴きワークに参加する）、③エンパワリング（心理的に安全なチームの風土づくりと活性化に貢献する）、④リフレーミング（メンバーの多様性を尊重し誠実な態度で協働する）、⑤コンフリクト対応（建設的に対応する）、⑥スケジュール管理と責任感、メンバーシップ（期日までに実習の準備ができる）、⑦リサーチ⑧レポート作成⑨発表報告、⑩追加役割の実施の10の視点でルーブリックを作成し、事前にこの評価表を学生に開示して最終評価を行った。各項目に関して学生は真摯に取り組み、総合評価の平均値は85.2点（最高93点、最低70点）と昨年度よりもやや微増の評価を納めた。学生による到達度自己評価も、すでに職業は選択されているため「10、職業選択の参考になった（4.3）」のみやや低いものの、他の項目の平均値は全て4.8と高い目標到達感を抱くことができている。また最終的に卒業レポートを12月までに記載でき報告書として冊子にまとめ全員に配布することもできた。よって、看護総合演習（看護管理）のゼミ活動を通して、学生は多くの学びを得たと判断でき、この科目の目標は達成できたと推察する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本演習科目は4年間に習得した看護実践の基本となる技術、あるいは看護実践の基盤となる知識に基づいて、保健・医療・福祉の包括的観点から看護の総合的な実践能力を高めるために、学生自ら主体的に実習を企画・実施・評価できることを目的としている。特に看護管理の総合実習では、病院組織における医療・看護の提供システムの構築、看護管理の実際など、病院における医療・看護サービス管理の実際を通して、体験的に看護管理を学ぶことは求められるため、DPに則って、「1.医療・看護の質の向上、患者の安全の保障に向けた看護管理・危機管理のあり方を学ぶ。」「2. 保健医療チームにおける看護管理者の役割と機能を理解する。」「3. 看護管理の視点から、看護実践能力としての問題解決力、マネジメント力、的確な判断力、及び意志決定力の必要性を再確認する。」「4. 医療チームにおける協働・連携の必要性を理解し、その実際を学ぶ。」という行動目標を掲げ、演習運営の構築を行っている。しかし学生はCOVID-19の影響で各領域の3年次の実習の多くが学内実習となり、病院での学びの機会は乏しかった現状にあった。しかし、半数の学生は看護管理の重要性を理解し興味を持ってこのゼミを選択していたため準備性はある程度は整っていたと判断できる。1年間の演習を通して、学生の到達度自己評価は全ての項目が4以上である、特に職業選択の項目以外は4.8と非常に高い到達感を得ている。よって、看護師がチーム内でリーダー的役割を發揮している重要な部門であり、実習先である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「病棟」の看護管理の概要は学びとることができたといえ、シラバスに掲げた行動目標は達成できたと判断できる。よって専門科目としての知識理解や思考判断、態度において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ開催時は、学生が主体となり司会・書記を交替で務め、毎回今回の目標を明確に掲げ、その目標が達成できるように司会・書記でスケジュールを考え、その旨をGoogleクラスルームで周知し、また同サイトに資料を事前にアップして予習を行って参加することをルールとしていた。当初はゼミ運営に苦慮していたが、徐々に意見交換も活発に行えるようになり自主性の高まりを見せていた。教員はあくまでもファシリテーターとして学生の自主性を重んじつつ、学生の学びが深まるように調整を図った。また、ゼミでの話し合いのもと、修正や再リサーチの時間も必要なため、1週間に1回の定期ゼミ開催とし学生が時間管理を行いやすいように配慮した。学生が部門役割をイメージできない場合は、動画を活用する、具体例を提示しながら思考させるなどの方法を取り、進行していった。授業の質評価においても、全ての項目で4.5以上と高い評価であり、特に「学生が参加する機会がもうけられている」「学生の質問に答える」という項目は、4.8の平均値であり、学生にとって効果的な看護総合演習運営は行えたと考える。今後もこのように学生とコミュニケーションをしっかりと図りながら演習活動を行っていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護総合演習（看護管理）は、学生が病院全体の質やチーム医療という視点で看護を思考でき、その思考が円滑に興味をもって行えるよう支援を継続した。しかし学生はCOVID-19の影響で殆どの実習が学内実習に変更となり、病院組織を理解することは非常に困難であろうと判断し、「集中講義 看護マネジメント論」の授業内容を工夫しながら、動画等も活用しイメージ化が図れるよう工夫を行い、週に1回のゼミ定期開催を継続し、目標達成に向けて活動した。 学生は終始、就職試験や各論実習以外では欠席なくゼミに参加し、自身の役割に責任を持ち課題に取り組んだ。その結果全員が図書館・情報検索・インターネット等を活用し準備を整え、病院施設と調整していた実習計画案報告日に、資料を整え報告することができ、また学生が作成した実習案は病院施設側からも受領され、予定通り病院実習を行うことができた。実習でも、平均84.8点の高い評価を受けた。総合演習の評価に関しては、①参加、②話す・聞く、③エンパワリング、④リフレーミング、⑤コンフリクト対応、⑥スケジュール管理と責任感、メンバーシップ、⑦リサーチ ⑧レポート作成 ⑨発表報告、⑩追加役割の実施の10の視点でルーブリックを評価を行い、平均値は85.2点（最高93点，最低70点）と昨年度よりもやや微増の評価を納めた。学生による到達度自己評価も「10、職業選択の参考になった（4.3）」のみやや低いものの、他の項目の平均値は全て4.8と高い目標到達感を抱くことができている。また最終的に卒業レポートを12月までに記載でき報告書として冊子にまとめ全員に配布することもできた。授業の質評価においても、全ての項目で4.5以上と高い評価であり、特に「学生が参加する機会がもうけられている」「学生の質問に答える」という項目は、4.8の平均値であり、学生にとって効果的な看護総合演習運営は行えたと考える。よって、看護総合演習（看護管理）のゼミ活動を通して、学生は多くの学びを得たと判断でき、この科目の目標は達成できたと推察する。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①事前学習として「輸液中の清拭及び寝衣交換」「12誘導心電図」「気管挿管の介助・チューブ固定・口腔ケア及び吸引・カフ圧計」「心電図モニター・心音」「輸液ポンプ」「弾性ストッキング・フットポンプ」「呼吸音・酸素流量計」「胸腔ドレナージ・JVAC・硬膜外麻酔」「ガウンテクニック・滅菌手袋」の目的と方法と注意点と根拠を課題とした。 ②COVID19禍にて臨地実習は行えなかったが、大学の実習室を使用し対面実習を行った。その方法は、3年生の各論実習における技術演習の際には、教員と一緒に学生の指導に当たり、他者に教えることで4年生自身の学びを深めていった。さらに技術指導だけでなく、4年生自身が患者役を行うことで、患者体験を通して、患者の身体的・心理的・社会的影響を深く考える機会となり、学びにつながった。技術演習指導前には、技術練習時間を設け、教員は技術チェックを行い、4年生は合格ラインを超えてから、3年生への指導にあたった。 ③文献研究においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日（対面or遠隔）を設けて、完成まで指導を繰り返した。 ④レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（遠隔）する（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は84点、A判定（90+）0名、B判定（80-89）6名であり、全員が標準的レベルに達したと判断する。目標別にみると、思考判断80%、関心意欲90%、態度は92%であった。全体的に真面目に取り組む姿勢が見られ、目標達成に反映された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.58に推移しており、すべての項目において、全ての学生が「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 回答者6名中1～2名が、図書館の利用・図書館から利用できる学術データベース・インターネットによる文献検索の利用をしなかったと回答している。しかし、図書館を利用しなかったものは、インターネットの検索サイト（CiNiiあるいはJ-STAGE）を使用しており、6名ともに文献を検索して自らで新たな情報を取り入れながら、情報の整理方法を学ぶことができたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、4年間の集大成ともいえる科目である。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価では、思考判断80%、関心意欲90%、態度は92%であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、全員が目標を達成したと考えられており、平均点の84点から考えても、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員が「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」と回答しており、平均値も4.58であり、概ね説明は分かりやすく質問に対する対応もできていたと考える。 図書館や学術データベース、CiNiiを利用しレポート作成に取り組むことができるよう、今後も、検索方法などについての資料を配布し、ゼミの際に、検索方法の実際を見せながら、わかりやすく説明していきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標については、概ね達成できたと考える。 次年度も、個々の学習レベルを考え、時間配分も調整しながら指導し、図書館の利用・インターネットによる文献検索が全員出来、自身で新たな情報を取り入れながらの学んでいけるよう、指導を行う。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	鹿毛 美香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護実践の応用」として置かれている各看護学領域の講義・演習・実習終了後に受講する「看護実践の統合」科目として、また「看護総合実習」の看護総合実習の事前事後演習として位置づけられている。そのため、既習の知識や看護実践の中から学生自らが疑問を持ち、それを実践的に解決し、考察することが求められる。今年度は、看護総合実習の事前7コマ、事後7コマで構成し、事前は文献レビューから実習計画立案までをグループ学習を活用、事後は個別課題として実習での結果をもとに論文形式のレポート作成へと展開している。 学生の受講動機は、「必修科目である」が71.4%、ついで「資格取得に必要」が42.9%であり、受講動機の多くは受動的なものであることが示された。そのため、この科目でどのような能力を養い、それが看護職に求められるものであることを具体的な例示をあげ説明し、学生自身が興味関心をもち疑問として提示してきたものについては、なるべく実習現場で実践できるようにする等を試みた。 この科目は、演習科目として学生が思考を深めることにも重点を置いているため、文献レビューなどは基本個人ワークとし、それを抄読会形式のグループ学習を取り入れ、他学生との議論の中で学生個々人の思考発展を促した。また、毎回授業時は、個人ワーク→グループ学習→個人ワークで展開することで、個々の学修状況を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、85.88(±3.72)点であった。GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は100.0%であり、概ね優秀な成績を収めている。 DPの目標別達成率としては、DP2「思考・判断」87.28%、DP3「意欲関心」86.88%、DP4「態度」80.63%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に学習の中で得た知識を活用し、応用していくことが必要であるが、その点の習得は図られたが、そこに至るまでの態度面（自律性や研鑽力）が十分ではなかったことが示された。加えて、「学生の到達度自己評価」において『事象を理解する視点や考え方を得ることができた』が平均値4.1と低かったことから、文献レビューの方法・進め方について次年度の課題として捉えたい。また、併せて授業の質評価において『期間内に行う学習の範囲や課題は明らかであった』が平均値4.0と低いことについて、授業内容から学生自身の疑問や思考内容から学習範囲が異なってくることを授業開始時に意識づけるなどして改善していきたい。 しかし、学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は、概ねこの科目の目標に達成していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護実践の応用」として置かれている各看護学領域の講義・演習・実習終了後に受講する「看護実践の統合」科目として、また「看護総合実習」の看護総合実習の事前事後演習として位置づけられていたため、「必修科目」または「資格取得」に必要であると認識し、学生は受講している。授業内容としては、学生自らが疑問を持った事象から考察することを求め、今年度は、看護総合実習の事前7コマ、事後7コマで構成し、事前は文献レビューから実習計画立案までをグループ学習を活用し、事後は個別課題として実習での結果をもとに論文形式のレポート作成へと展開した。その結果、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると平均値は85点を超え、DP2「思考・判断」の到達率は87.28%、DP3「意欲関心」86.88%、DP4「態度」80.63%とすべてのDPにおいて達成率が80%を達しているため、内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「到達度自己評価」の平均値は4.1～4.4、中央値は4項目で4.0、6項目で5.0であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のについて、学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーションや表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」の5項目で4.4、もっとも低い項目は「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の4.1であった。 学生による「授業の質評価」の平均値は4.0～4.4、中央値はほぼ5.0と高い値であった。しかし、その中で平均値、中央値ともに低い項目は「期間内に行う学習の範囲や課題は明らかであった」4.0「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.1であった。 学生の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」の平均値が低い項目をみると、「事象を理解する視点や考え方」、「期間内に行う学習の範囲や課題の明確性」という授業へ取り組む導入部分での学生の準備状況と教員側の対応にズレがあったと考えられる。授業初回時の導入部分に時間を割き、学生の理解を求めるよう検討したい。また、今年度は、看護総合実習施設ごとに実習日時が異なっていたため、授業の日程については学生たちと協議し決定したが、履修者全員同日に学習する内容、実習グループ毎に学習する内容、個々人で学習する内容を日程を含め、前もって提示するほうが学生の学習準備状況も整えやすかったのではないかと考える。授業時間に限界もあるため学生個人々人へのフィードバックを通して、学生が納得をし課題に取り組める環境を作っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門科目の最終段階である「看護実践の統合」科目にあたる本科目の位置づけから、学生自身で思考し、課題解決する「思考・判断」の面では概ね達成できたが、この科目に対する心構え、学習準備などの導入部分に課題を残した。この点は、導入が上手くいかないと学生の学修成果に影響が出る可能性があるため、授業展開を検討し、改善する予定である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	中原 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目のなかの『看護実践の統合』の位置づけとなる科目である。 既習の知識・技術を統合して、慢性期・終末期の患者への看護実践能力を養うことを目的とする「看護総合実習（慢性期・終末期）」に連動した科目でもある。 また、学生から看護師への役割移行期であることをふまえ、責任ある行動や自主的・意欲的な態度を養うことも目的としている。 例年は「看護総合実習」と課題を連動させ、実習計画立案や事前学習、実習後に実践をふまえたレポートを課していたが、本年度は臨地実習が困難であったことから、文献研究によるレポート課題に切り替え、ゼミ形式で取り組んだ。既習の科目や実習での実践を振り返りながら自己課題や追求したい課題を明確にし、各自の関心の高いテーマで取り組めるようにすることで、意欲をもって臨めるようにした。オンラインでのゼミ開催や、メール、Classroomも活用しつつ、できる限り対面で実施した。特に、研究論文の形式に沿ってレポートを作成する際には、学生個々の特性や進行状況に合わせて個別にきめ細かく指導を行った。グループ間で学びを共有する場として抄読会や発表会などを開催し、意見を他者にわかりやすく伝える力をトレーニングできる機会を意図的に作った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は84.6点であり、全員が理想的レベルに達することができた。DP別では2-1が84.5%、DP3は83.5%、DP4は86.5%であった。 これは、関心のある看護の領域でゼミを選択しているため学習への準備状況が良いことと、意欲・関心を持ったテーマを選定しているためと考える。 学生の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目は、ほぼ「④わりにそうだと思う」～「⑤かなりそうだと思う」に分布しており、本科目の目標としていることについて達成感を得ることができたのではないと思われる。一方、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」は6名中5名が「③まあまあそうだと思う」と回答しており、レポートにおける表現力やプレゼンテーションについては自己課題があると感じていると考える。 また、図書館の利用状況としては1名を除き5名が利用できていた。しかし、文献検索の際にはインターネットでダウンロードできる文献に依存している傾向があり、気になるところではある。 学習量としてはまずまず確保できたと自己評価している。自由記載には他のメンバーの論文で気になった疾患や看護について学習したり、国家試験の学習にも結び付けながら自己学習に取り組んだとあり、意欲的に学習する姿勢が見られる一方、時間が確保できないと述べているものもあり、学生間の差が見られた。 以上の自己評価および成績から、積極的に自己学習に取り組んだものと評価でき、教育目標は達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門教育科目のなかの『看護実践の統合』の位置づけとなる科目である。 必修科目であるため、全員が「必修科目である」、「資格取得に必要である」などが選択理由ではあったが、一定の成績を修めていること、学生の自己評価でも到達できたと評価していることから内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、概ね肯定的な意見であった。 図書館の図書・雑誌の利用や、図書館から利用できる学術データベースの利用状況について、それぞれ1名が「利用しなかった」と回答しており、文献の探し方についても確認および指導を行っていく必要がある。また、図書館等を利用していても、文献検索時はインターネット上からPDF形式でダウンロードできる文献のみをセレクトしていたため、次年度以降は文献取り寄せ方法の指導も行っていく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	統合科目として必要な到達レベルを達成できており、意欲面、態度面においても学生がモチベーションを維持しながら修了することができていたことから、本科目の目的、目標は達成できたと考える。ゼミのメンバーは毎年変わるため、個々の特性や関心事にあわせた個別性のある指導が行えるよう工夫を重ねていく必要がある。今後も、個々の学生とコミュニケーションを密にとりながら指導していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が83.3%、「資格取得に必要である」が50.0%、「関心のある内容である」は33.3%であった。小児看護領域のみでなく、母性看護領域に興味があるが母性看護領域がないために小児看護を選択した学生も半数いた。そのため、子どもだけに焦点を当てず、家族を対象とした演習や実習を計画した。また、本科目は、看護実践の統合の科目であり、これまでの既習の知識・技術の統合を図り、4年間の学習を仕上げることを目標とした。対面での演習を基本としたが、新型コロナウィルス感染症の影響もあり、リモートも活用し、運営した。前半は、グループ討議や個人の学習成果の発表を中心としたグループワーク。後半は、個人の目標を達成できるよう個別指導を中心とした。科目の学習の他に、就職活動や国家試験への支援を行った。「あらかじめ授業の計画をたてた」学生は4名。シラバスや教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生は1名であった。新型コロナウィルス流行の影響で、実習時期や内容の見通しが立てにくかったことも影響していると考え。そのため、授業時間だけでなく、メールやMeetを活用して、学習や就職活動への支援を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の成績評価の平均値は83.5点であった。成績の内訳は、A（秀）が17%、B（優）が67%、C（良）が17%であった。 目標別にみると「思考・判断」は83.0%、「関心・意欲」は91.7%、「態度」は76.7%であった。学生の到達度自己評価の平均は、38.9であった。 自己評価の中で「自分なりの目標を達成した」という項目が3.7と低評価であり、その理由として、希望する実習計画を立て、学修をすすめ実習準備をしていたが、新型コロナウィルスの影響により、臨地実習は可能となったが、実践での制限などもあり、目標の変更を強いられた学生も多くいたことも考えられる。 一方で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることが出来た」などと、変更を強いられたことでの学びもあったことがわかる。 状況によって、変更を強いられる状況でも、新たに目標設定し、できるだけ思考を深め、達成感を学生が得ることができるよう指導方法を工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門教育科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「受講動態」では「必修科目である事」ことや「資格取得必要である」ことで履修しており、その結果、学習到達度の自己評価」では、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と評価してことから、内容的に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	最終学年の統合科目であるが、3年次の臨地実習にほとんど行くことができず、医療の現場を知らない、また、子どもほとんど触れ合ったことのない学生であったため、子どもの理解を中心に4月～5月は演習を行った。その後、自分が興味のあるテーマに沿って文献検討を行い、テーマを絞って実習計画を立てた。しかし、臨地の新型コロナウイルス感染対策状況などで実践に至ることが出来ず、目標の変更を強いられる学生もいた。そのため、「自分なりの目標を達成した」学生は3.7と低値であった。学習の取り組みについては、図書館の図書・雑誌利用、学術データベース利用、インターネットのホームページを検索し、利用した学生がほぼ全員であったことから、課題に取り組んでいることがわかる。目標設定を変更せざる負えない状況になった際に、再度目標設定するときの学生の学習意欲の確認をしながら、丁寧に対応していく必要があったと考える。 演習の進め方としては、毎回グループディスカッションを行っていたが「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は3.8と低値であった。対面だけでなく、リモートを用いたグループワークであったことも要因であると考え。グループディスカッションの方法も検討し、コミュニケーション力や表現力も高められるよう工夫する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標については、概ね達成できたと考えられる。 次年度も、臨地実習の状況も感染症流行により、その時々で変更を強いられる状況になることが予測される。そのため、学生個々の状況を把握しながら、学生が主体的に学習できるよう、指導していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は4年生前期・後期、必修科目である。6名の学生を担当した。受講動機は、「必修科目である」100%であった。学生は急性期看護を第一希望していた。 ②看護総合演習は、看護総合実習の準備および事後の発表を行う科目である。今年度はコロナの影響で臨地実習へ行けないという状況であったため「文献研究」を行った。急性期をキーワードに興味・関心のある事柄から、疼痛緩和、ケアや離床、退院指導などについて文献研究を行い、論文作成、抄録作成、パワーポイントをもとに発表を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は、平均値87.8（±2.3）だった。全員が理想的なレベルに達していた。その理由としては、興味・関心から目的をかかげ、文献検索を行い結果としてまとめ、目的にそった考察を行うことができていた。さらに抄録作成、パワーポイントを作成し発表・質疑応答を行った。ほとんどの学生が図書館の図書、雑誌や医学中央雑誌にて検索を行っていた。 ②DP観点別の成績は、いずれも高く、知識理解51.5/60点（得点率91.7%）、関心意欲18.0/20点（得点率90.0%）、18.2/20点（得点率91.0%）と、全員が理想的なレベル（80点以上）に到達した。 ③授業の質評価では、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.3と最も高く、次いで「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られた」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」4.0であった。「評価基準は明らかであった」3.8であった。 ④図書館の図書・雑誌利用、学術データベース利用はほとんどの学生が利用していた。学習量の評価では、1回30分程度以上の準備・復習をほとんどの学生が4回以上であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「成人急性期看護」における知識・技術を深める、自己の課題についてレポートを作成し、発表、意見交換を行うことを目標としている。既習の学びを統合できることを講義内容に含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めたいと考えて受講しており、レポート作成を行うことができた。一連の学びを得ることができたと考えられ内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 文献研究を行い、さらにパワーポイントを用いて発表・質疑応答を行うことができていた。また、自己の看護観を見いだすことができていたことを踏まえて、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	コロナ禍のため、来年度も臨地実習へ行けるかどうか不明である。 臨地実習へ行けない場合を想定して、知識面での修得と整理を早めに進めていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学特論	4	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は専門教育科目の看護実践の統合科目として位置づけられ、4年次後期の選択科目として初めて開講される。看護は社会と生活者として暮らしている人々の健康に大きく関与する学問領域である。既習の看護の意義や実践に伴う倫理についても解説を加え、トピックスも織り交ぜ、関心や意欲が高まるよう教授した。併せて社会環境の変化により期待され、大きく変わる看護ニーズをそれぞれの学問領域を超えて解説し、実践を視野に入れ現在の課題とこれからの看護について投げかけを行った。看護の将来展望や責務について学習し再認識することにより、考察が深まることを期待している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された			達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	履修生19名の総合評価は平均点86.1点で、再試者はなく理想とするレベルに到達できた。受講動機は教員の勧め46.7%、関心のある内容66.7%であった。授業評価は平均3.9、また授業計画を立てて臨んだ学生は53%、35.5%が図書を利用し情報検索を行っていたことから関心や意欲が高いことが伺える。国家試験対策の一環として受講している学生もいるが、主体的な学修行動がとれていたと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上に位置づけ 看護学特論は、看護実践の統合科目として位置づけられている。4年生最後の選択科目であり、国家試験、来春の卒業を控えた学生が自己の将来展望を抱き、責務を自覚できる機会と考えている。一定の評価を得たことからDPにおいて問題ないとする。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は既習の学修を統合し、看護職として視野を広げ現在の課題や将来展望について考察することにより、今後看護を探究する姿勢を持ち合わせ、職業人として自立への動機づけを意図した科目である。履修状況や成績評価、等 概ね良好であったことからCPカリキュラム上から内容の妥当性には問題はないとする。 ③まとめ 以上のことから位置づけから見た内容的妥当性については問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この科目は看護の現状の課題と将来展望にむけ、看護の専門領域を超えた統合科目として各テーマごとに授業が進められる。選択科目であり、学生の興味・関心、意欲に対し、学生個々の質問に答え、理解と問題解決に向けた助言などを行った。次年度は受講生の主体性に対して、テーマ毎に学生同士がディスカッションできる時間の設定と確保について検討する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の選択科目である。社会人としての将来展望を見据え、社会の変化と看護の在りようについても考察することが出来た。担当教員がそれぞれ専門性の観点から解説を行い、到達度において目的は到達できた。次年度は人を対象とする看護にとって重要と考える「倫理的側面」について伝え、倫理観を培うことも意識し課題と深く向き合えるよう授業展開を行う。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	雪松 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生での履修であることから、①必須科目であること②資格取得に必要であることが動機であるのは、致し方ないことと考えます。 学生の中で、人々のQOL向上を意識することは、知識として理解していることはこれまでの授業からも感じていましたが、コロナにより人との関わりを深く持つことができないことの影響を補完できる内容にすることを意識しました。学生の日常から考えること、より具体的な事例を紹介することで保健師・看護師として実践時に役立つ講義になるよう注力しました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通しての評価については、今年度は成績に若干のばらつきがあったことから「やや達成された」としたが、授業中の発言や課題の中で、授業時間以外に調べた内容が見られたこととその成績、インターネット利用の割合の多さから、DP3意欲関心と今年度から追加されたDP4態度については「達成された」とした。 学生同士意見や考え、自分の気持ちを表現する時間では、オンラインであることの影響は少なからずあったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラム上の位置付けからみた内容的妥当性：国家試験前という時期については、第一回目の授業で説明はしたものの、納得できなかった学生もいたようですが、保健師や看護師の現場での個人との関わりを具体的にイメージできるよう工夫し、妥当性はあると判断している。 DP1として、看護実践に必要な基本的な知識とあるが、この授業で扱う内容に一つの正解はなく、また技術的なことではないということが当てはまるのかは若干気になるところだが、実習などの実践と結びつけて考えるなど、より現場に意識を向けることにつなげられていたことは評価できると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業での課題提出について、学生の中で操作の誤りがあり、提出したはずの課題が提出されていないことがあったことから、操作方法の周知やシステムについて少し気になった。 試験の提出時は、メールでの確認も行ったが学生同士操作方法について連絡を取り合っており、協力する姿勢が見受けられたことはよかったと考える。 学生からの意見として、講義が楽しかったという声があった一方、実施時期についての疑問が挙げられていた。大学で学ぶことは、すぐ使えるものではなく、後々理解できることもあり、現場に出た際に役立つと感じてくれるものと期待する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	オンラインでの授業は2年目のため、集中講義であるが学生の集中できる時間、オンライン授業の向き不向きが学生や内容により異なることなどを配慮することができた。 授業内容に加え、オンラインでの進め方や課題提出など、昨年での気づきに対応することができた。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
災害看護学	4	前期	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度新設科目であった。看護学科4年生後期の必修科目である。また、DP配分では意欲の配分割合が最も多い。既に、卒後の進路が内定している学生も多いため、各自が自らが看護職として災害看護にどう向き合おうとするのか、意欲を高めるよう実践的な授業内容を計画した。災害看護の実践経験をもつ看護師・保健師を選出し、外部講師として招聘した。講義内容について何度もやりとりを重ね、最新の災害看護に関するトピックスも取り入れ、本学学生の準備状況にあった内容になるよう努めた。 受講動機は、「必修科目である」100.0%、「資格取得」13.6%、「関心のある科目である」4.5%、「単位数を確保する」6.6、「GPAをあげる」1.1、「教員に勧められた」1.1%であった。開講時は、関心を持つ学生がいなかったため、学生のモチベーションを高めるために、意見交換を増やし、学生の問題意識を高めるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	客観評価は、DP1（97%）、DP2（87%）、DP3（平均83%）DP4（平均90%）であった。 学生の達成度自己評価は、「自分なりの目標を達成した」（平均4.0、中央4.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.3、中央4.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」（平均4.2、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討することができた」（平均4.1、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.1、中央4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（平均4.1、中央4.0）「自分が学ぼうとしている分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均3.8、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」（平均3.4、中央3.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均3.9、中央4.0）、「職業選択の参考になった」、（平均3.9、中央4.0）。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」12.5%、「学術データベースの活用」6.8%、「インターネットやHP」41.0%の学生が利用していた。「学習量の評価」では、「30分以上の予習または復習を行った」について、2回以上は79.4%であった。授業の課題以外に学習に取り組んだと回答した者は58.0%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」では必修科目であり、資格や単位取得に必要であるという動機が殆どだったが、数名は関心のある科目であると回答していた。学習到達度は、4.（2）の通り、到達できたと考えられる。 自由記述では、「災害看護について興味を持ち、自分の将来の選択肢に入れようと思いました。」 以上より、学生の受講意欲は高まり、学習到達度は達成できており、DP/CPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて、内容的妥当性はある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」（平均4.3、中央4.0）、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」（平均4.4、中央5.0）、「説明は理解しやすいものであった」（平均4.3、中央4.0）、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（平均3.5、中央4.0）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」（平均4.0、中央4.0）であった。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」12.5%、「学術データベースの活用」6.8%、「インターネットやHP」41.0%の学生が利用していた。「学習量の評価」では、「30分以上の予習または復習を行った」について、2回以上は79.4%であった。授業の課題以外に学習に取り組んだと回答した者は58.0%であった。 自由記載では、「外部講師の実際の声も授業の中で聴くことができ、通常の授業よりも頭に入りやすく、関心を持つことができました。」「学生生活最後の授業が興味ある分野の授業でよかったです。とても勉強になりました。」「看護師さんや市の職員の先生方の現場のお話を聞くことができ、災害看護により関心を持ち、講義を聞く時もあったという間で集中して聞くことができました。」であった。他には「講義中後ろの学生がうるさすぎる、恥ずかしい」という意見がみられた。 今年度、100分の時間配分について、講義80分の後、質疑応答及び振り返りレポート作成の時間としたが、次年度は、学生同士で話し合い意見交換する時間を設けるなど工夫を行う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度、4年生後期の必修科目として開設した科目であった。達成状況は、客観評価及び主観評価ともに到達できた。災害看護に関するより実践的な内容を計画し、卒業を直前に控えている時期でもあり、外部講師が担当した災害看護活動の講義は、学生の関心や将来の進路選択にも良い影響を与えたようである。 次年度の課題は、災害看護に求められる看護技術について卓上演習を実施し、参加型授業によってより実践的な内容へと改善を加える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際保健論	2	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・この科目は、海外での保健医療活動だけでなく、Transcultural Nursingを基盤とし、国内での外国人患者への保健医療看護や、多文化共生に関する内容を含み、医療人類学、文化人類学、国際関係論的な方法論を含むように構成し、さらに今日的なグローバルな健康課題や国際問題に焦点を当て紹介するために、毎年内容を調整している。 ・本年度は、スリランカ紅茶ボランティアにおける歴史と、健康、就労、教育、貧困、暴力、暮らしなどの課題についてグラフィックレコーディングを用いて説明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・2回の途中課題と食に関する看護についてのグラフィックレコーディング最終課題と参加態度で評価した。 ・途中課題は、講義の中で説明した知識や情報のほか、自分なりの考えを示すもので、いずれの学生も提示された課題の前提を踏まえ、記述されていた。記述の内容は、内容の正誤、優劣ではなく、様々な環境や条件の中で、多面的な考察や意見の提示ができていているかによって評価しており、学生の自由な発想や意見を妨げないことは事前に周知して評価した。 ・「文化的背景の異なる人々への看護、食にまつわる患者ケア」は、学生が制作、プレゼンテーションした後提出したものを、教員が編集し、他の外部研究資金を用いて印刷製本したもので、総ページ数は50ページとなった。学生全員に配布して共有し、外国人患者の対応に当たる医療従事者等に希望に応じて配布する予定であり、学修成果の活用や発展が期待される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・この科目では既に起こっているグローバルな健康課題や対処の歴史から学ぶだけでなく、将来起こりうる課題や、自身が遭遇する多文化共生や国際問題などへの態度や取り組み方を養う科目であり、特に看護師の文化能力を醸成するために、看護師と患者との関係に焦点を当てていることは、看護学生にとって身近であり、関心を高めるために妥当であり有効であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・グラフィックレコーディングは、文字資料に関連のある図を加えて情報を整理して示すことで、関心や理解を助けるために採用しており、国際活動の領域では、低リテラシーの人々へのヘルスコミュニケーション手段として有効であると考えられ、初回よりこれを学生に提示しながら、最終的には学生自身が学修活動としてグラフィックレコーディングを制作し、それを用いてプレゼンテーションすることが達成された。 ・学生が個々に設定した課題の条件、疾患、必要な食事療法からは、どのような患者が、どのような状況で、食事に問題を抱え、看護師の助けを必要としているのか、それを日本の看護師としてどのように援助しようとしているのかをグラフィックレコーディングにしたことで、対象の疾患や文化への理解と、療養への思いやりが、寄り添いとして表現され、情報量として充実しただけでなく、非常に温かみのあるものとなった。また、印刷製本されたものは、外国人患者にかかわる看護師にとって、患者への理解や関心を高めることに役立つものと思われ、発展的に活用していけるものとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・授業への出席、途中課題での考察や意見の提示、最終課題でのグラフィックレコーディング制作とプレゼンテーションなどへの学修活動を通じて、多文化に対する関心を高め、異なる文化に関する情報を集め、その特徴を知り、自身の文化と対象の文化を考慮しながら看護の提案をするという、KerrにおけるCultural Competence発達段階が、Cultural Destructiveness→Cultural Incapacity→Cultural Blindness→Cultural Pre-Competence→Cultural Competenceまで進んでいると考えられる。 ・これまで、講義の他の学生の学修活動の課題として、病院での外国人患者の対応、看護英語、様々な食文化への対応、アイヌ琉球文化の特徴、海外の医療制度医療職の免許制度を取り上げてきた。 ・今後は、女性の自立の歴史やジェンダー役割などもテーマとし、大学看護学科の統合科目としての質を高め、教員、学生の人間性の涵養につながる科目としての位置づけを展望する。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、学生に問いかけたり、話し合いの課題を提示することや、発言を促すなど、授業への参加度を高められるよう留意している。また、授業の学びを毎回提出させ、疑問点は次の授業でフィードバックすることや、授業後に短時間教室に残り、質問がある場合にはできるだけ対応するようにしている。授業準備では、授業前に前週のうちに次の授業配布資料を配布し、他科目の自己学習と学習計画を調整しながら予習復習できるように配慮した。 また、復習に活用し授業内容の理解を深められる動画サイトなどを準備し、授業時に紹介した。 学修準備性では、学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、24名（30名中）が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答した者が最も多く、9名（30名中）であった。課題以外の学習については、「授業でだされる課題が多く、授業以外の課題以外に取り組んでいない」と回答した学生が複数いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	客観的評価は、思考判断（DP2-2）76%、課題発表を通しての意欲（DP3）90%・態度（DP4）95%であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであった。 学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」（平均4.8、中央5.0）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（平均4.6、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（平均4.8、中央5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（平均4.9、中央5.0）、「コミュニケーションや表現力を身に着けることができた」（平均4.6、中央5.0）、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（平均4.4、中央5.0）、「職業選択の参考になった」（平均4.6、中央5.0）であった。 学習量の評価をみると、図書館、インターネット利用については、12名（28名中）が利用していた。学習量では、「30分以上の準備」6回と回答した学生が最も多く、12名（28名中）42.9%であった。その一方、「0回」6名（28名中）21.4%であった。課題以外の学習は、5名（17.9%）が取り組んでいた。自由記載から「授業でだされる課題が多く、授業以外の課題以外に取り組んでいない」と回答した学生が多く複数いたため、課題以外に学習した学生は少なかった。 自由記載「地域アセスメントは難しかったですが、統計を読み取って地域の特性と結び付けていくという学修はとてもためになりました。」					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」25.0%、「資格取得に必要である」75.0%、「関心のある科目である」35.7%、「GPAをあげる」10.7%、「教員に勧められた」3.6%であった。「学習到達度の自己評価」は、4.（2）の通りいずれの項目も4.4-4.8の間であった。以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」（平均4.6、中央5.0）、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」（平均4.5、中央5.0）、「説明は理解しやすいものであった」（平均4.2、中央5.0）、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」（平均4.7、中央5.0）、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」（平均4.7、中央5.0）であった。 図書館やインターネットの利用状況では、「図書館の図書、雑誌を利用した」42%、「学術データベースの活用」32%、「インターネットやHP」98%の学生が利用していた。「学習量の評価」では、30分以上の予習を「6回」42%、「4, 5回」36%、「全くしていない」21%であった。また、「授業の課題以外に学習に取り組んだ」42%と回答した。授業では、ラウンドしながら声をかけることや、合間に質問の時間を設けたり、授業後に残って質問対応を行っていたのが、自由記載欄は「時々、授業の内容が難しく疑問に思っについていけない空気があったが、どんどん進むので、実際に作業を始めると？となる時があった。」とあった。今後も適宜理解状況を確認していく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	保健師課程に位置づけられる科目であり、学習課題も多い。DPの到達状況からみると、再試験該当者はおらず全員が達成していた。学生の自己評価では9割が目標を達成したと回答しており、客観評価ともほぼ一致していると考えられる。 改善点であるが、授業方法の工夫が必要である。特に、授業後半の地域アセスメントに関しては、近年、エクセルを使ったことのない学生が増えており、パソコンを操作し統計データを整理するまでに時間を要している。そのため、データを読み取り、思考を深める時間が足りなくなっている状況である。今年度は途中から教員が表作成までを行い、データの読み取りから開始するよう変更し、到達目標を達成することができた。次年度は、情報提供の方法を工夫することが課題である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護師課程は選択、保健師課程は必修の科目である。保健師課程の選抜試験が2年前期終了時に実施されることから、受講動機として「資格取得に必要なである」が62.5%（昨年度60.0%）と最も多かった。「関心のある内容である」を受講動機にしてくれた学生53%いたことは、大変うれしいことであった。公衆衛生看護学は保健師だけではなく、現在は病院の看護職にも必要となる知識である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。 テキストは、前期の「対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ」を引き続き使用し、授業はテキストに沿って進行するが、講義資料はオリジナルプリントとスライドで解説した。そして、プリントやスライドには教科書のページ数を記載した。これは、テキストは自己の予習・復習に使い、講義ではテキストの内容を補足するものや問題提起をするものを提示する意図がある。学生の中には、保健師課程を希望する意欲的な人と、単位数を確保するための受講の人がおり、授業に対する準備性は二分していた。本科目は、保健師国家試験に直接関係することから、難易度や専門性が高い講義であるが、全員が最後まで履修した努力を賞賛したい。また、例年と同じく講義の欠席がほとんどなく講義に出席して、呼びかけに応じて反応してくれるなど、集中力を保ってくれたことに感謝したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義期間の途中で提出を課した学習成果物にはかなりの差があり、提出後に解説を行ったものの、個人個人が修正されたかどうかの確認が出来なかったことから、教える側としても心配であった。しかし、授業評価アンケートの到達度自己評価の結果ではすべて高得点であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」の平均点が4.5点（昨年4.2点）、「事象を理解する視点や考え方を得ることが出来た」の平均点が4.5点（昨年4.2点）、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均点が4.5点（昨年4.0点）と、高い点数であった。 最終的な成績は、平均点72.8点（昨年72.7点）であった。成績の内訳は、秀1名（昨年3名）、優5名（昨年6名）、良25名（昨年8名）、可12名（昨年14名）で、再試験者はいなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、論理的な思考判断（DP2）、看護職として学び続ける意欲関心（DP3）、倫理に基づく行動と多職種連携の態度（DP4）を目指している。あらゆる年代、あらゆる健康レベルの対象から共通した健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせる支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたり、各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要である。それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。 学生は2年前期で疾病論と各看護学領域の概論を学び、2年後期で各看護学領域の方法論と同時進行であったことから、かなりの難易度だったと思う。しかし、授業評価アンケートの達成度自己評価で、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均点が4.4点（昨年4.0点）、「職業選択の参考になった」の平均点が4.6点（昨年4.2点）であったことから、看護職として施設内看護だけでなく公衆衛生看護の大切さ、予防活動の重要性を理解してもらえたものとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。 地域保健活動はあらゆる健康状態、あらゆる年齢の集団や地域を対象としていることから、病棟の看護に比べて対象をイメージしにくい。また、病棟の看護は患者に直接看護技術を提供するが、公衆衛生では間接的な援助方法を用いるため、テクニックとして表しにくい。そのため、到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均点が4.1点と、自己評価点の中で一番低かった。教科書は自己学習の立ち戻り先として使い、講義の解説にはオリジナルのレジメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。レジメには教科書の該当ページ数を入れ、復習しやすくした。授業評価で、授業の記録は「配布資料に記録した」がほとんどであったことから、ポイントを整理し、復習するために教科書を読むためには、ページ付きの配布資料が有効であったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は対象の課題や使用する技術の可視化が難しい。そこで、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。 保健師過程を目指している学生と看護師課程の学生では、意欲に違いがあるなかで、学習の意欲を維持するのは難しい。この科目の内容が看護師国家試験に出題されている事、今後の看護活動は病院完結型では出来なくなっている事、看護師に必要な知識である事、をしっかりと意識させていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理論	4	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。 本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後後期に開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。授業形態はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業となっている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、89.1(84.5)点であり、再試対象者はいなかった。理想的レベルに全員が達した。 目標別にみると、思考判断に関しては86.9 (79.3)％、意欲関心に関しては90.0 (90.0)％、態度に関しては93.3(93.1)％であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。昨年度より比較し、到達割合が上がっているが、対象の学生が違うため一概に効果的であったか判断することは難しいが一定の教育成果は評価できる。 そのため、科目の目的を達成できたと評価できる。学生の到達度自己評価においては、全項目においての評価平均が3.9～4.3点であり、昨年度の3.8～4.2と比較しても、概ね到達できたと判断できる。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討をさらに進めていく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。 最終的な成績評価及び学生の到達度自己評価から概ね目的は達成できていると評価できる。そのため、内容的には妥当であるとする。学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後も必要である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開した。学生も実習後のため、地域の課題を想起しやすく、成績の結果にもその状況が反映していると考えられるが、昨年度より新型コロナウイルス感染症の影響により、実習期間の短縮や遠隔での実習となり、学生の現場での経験値が少ないため、教材の検討を行い実施したが、授業の質評価においても4.0～4.8と学生の意欲に応えることができたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 本年度も教材の検討開発で試行錯誤の状況で進めた経緯があるが、学生の学習態度が積極的で、地域の事象に対する公衆衛生看護管理としての捉え方を学びたいという姿勢がみられた。少人数教育の為、受講者個々の学習状況も把握しやすいこともあり、学生と教員の双方向のコミュニケーションを生かした授業展開を今後も取り組んでいきたいと考えている。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科「専門教育科目」の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、全員が「資格取得に必要な科目」と認識し、「関心のある内容」として85.7%認識していた。 「学校保健」は、主に学校の保健に関する内容を学び、他にも学校安全や食育について学ぶ科目である。学生が事前課題を活用し、発表や討論にいかすような授業構成にしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な学生の成績の到達度は、83.0（±4.7）であった。成績は「優」が71.4%、「良」が28.8%であった。 学生のDP目標別達成度は、「知識理解」79.5%、思考判断が92.0%、意欲関心88.9%であった。 学生の「到達度自己評価」は、3.9～4.4であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 看護学科「専門教育科目」の選択科目であり養護教諭を志望する学生にとっては必修科目である。2年生後期に実施しているが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみて、達成度を80%とすると、平均値は概ね達成している。内容的には妥当であるとする。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」の平均値は、4.6～4.7であった。 学生の「学習量」は、準備と復習を「6回実施」と回答した学生が最も多く85%いた。 学生の「情報利用」について、シラバスは全員が参考にしていた。計画を立て授業を受ける学生が半数いた。 学生の「図書館利用」について、「図書・インターネット」は全員が利用していたが、「学術データベース」は57%が使用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護学科における「専門教育科目」であり、養護教諭免許状取得に関しては必修科目である。学校保健の基礎的な知識を主に理解していく科目である。概ね教育目標に到達したと考えるが、学校保健の基礎知識について、さらに理解を深めるような工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科専門科目の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。養護教諭の専門的な仕事を主に学ぶ科目であるために、学校保健や学校安全や食育を学ぶ講義「学校保健」の履修後に実施した。学生の事前学習をいかし、授業内で発表や演習する活動を取り入れるよう、授業を構成している。 学生の認識は、「資格取得に必要な科目」であるが100%、「関心のある内容である」が85.7%であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績としては、85.6（±4.8）点、成績「秀」が28.6%「優」が71.4%という成績であった。 DP目標別達成度は、「知識・理解」が84.9%、「思考・判断」が84.0%、「意欲・関心」98.6%で、「態度」が87.1%であった。 学生の「到達度自己評価」における平均値は4.3～5.0であった。 学生の「学習量の評価」は、30分以上の予習・復習を「6回」と回答した学生が85%いた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職の養護教諭一種免許状資格に必要な科目である。2年後期に実施しているが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからからみて概ね妥当と考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると、80%を達成と考えると全体成績および全てのDPの項目別にみても達成している。学生の自己評価を含め概ね内容的には妥当であると考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生は、予習や復習、講義においても発表や演習を前向きに取り組んでいた様子がみられた。結果として、学生の「授業の質評価」は、4.9～5.0であった。 「情報利用」について、シラバスは71.4%が参照し、計画を立て授業に参加している学生が42%いた。 「図書館の利用」について、「図書や・インターネット」は全ての学生が活用し、「データベース」を85.7%の学生が活用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	看護学科「専門教育科目」の選択科目であり、養護教諭一種免許状取得においては必修科目でもある。学生の成績からみた達成度や学生自身の「到達度自己評価」や「授業の質評価」から教育目標に概ね達成したと考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○全学科：平均点92.3点、秀48人（73.8%）、優12人（18.5%）、良4人（6.2%）可2人（3.1%）、不可0人（0.0%）。SD8.41。 ○看護学科：平均点94.5点、秀8人（100.0%）、優0人（0.0%）、良0人（0.0%）可0人（0.0%）、不可0人（0.0%）。SD4.58。 ○看護学科（昨年度）：平均点75.9点。秀1名（10.0%）、優3名（30.0%）、良3名（30.0%）、可3名（30.0%）、不可0名（0.0%）。SD8.7。 ○昨年度と比較し大幅に得点が上昇し、全員秀となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○昨年度と同程度の学習内容・程度であり、試験に関しても同様であった。 ○本年度は次の2点に取り組んだ。（１）レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。（２）オンラインで繰り返し学習できる復習テストを充実させた。 ○また、オンラインでの試験であったため、試行を複数回行った。 ○到達度が非常に高かったのは、試験形式に慣れると同時に、それが復習の機会となったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は非常に満足できる結果であった。 ○次年度は対面授業の予定であるため、本年度とは異なる条件で授業を行うことになる。ICTの利点を生かした学習を促すとともに、教材や授業実践の工夫を行いたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	前期（後期）	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。学生が学校という場における保健教育について知識理解を深め、教職課程の実習で保健教育を実践できる力を養うことが重要になる。授業づくりに関する基礎的な学習を履修後に実施するのが望ましいが、3年後期看護学科実習のためにこの時期に履修することになる。そのため、既習事項を確認しながら実施する。また、実習で授業を実践するために、講義だけでなく演習の機会を多く取り入れている。 学生の受講動機の項目「資格取得に必要である」が77.8%、次いで「関心のある内容である」50.0%という認識で学生は受講している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.0（±7.5）であり、「優」71.4％「良」28.6％であった。DP目標別達成度をみると、「知識理解」77.1％、「思考判断」82.4％、「態度」83.5％であった。 学生の「到達度自己評価」に関する項目の平均値は4.2～4.5であった。 学生の「学習量の評価」、準備と復習について「6回以上」取り組んだ学生が半数いた。 学生の「成績到達度」は、80％を達成の基準とすれば全体的な成績としては到達している。項目別としては「知識理解」がやや達成されていないが、他の項目は達成していた。 学生の成績及び授業後の「到達度自己評価」結果が概ね良好であった点から、概ね教育目標に到達したと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① C P, カリキュラムマップからの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、教職課程の養護教諭一種免許状取得のための必修科目である。既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であるとする。 ② D P, 行動目標からのみての内容的妥当性 成績評価から、学生の全体の成績および「思考判断」「技能表現」の達成度は概ね達成し、内容的には妥当であったとする。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「情報の利用」として、シラバスを参考にした学生は半数、計画立案については33%が立案していた。 「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.2～4.7であった。 「学習量の評価」については、予習・復習を「6回以上」取り組んだ学生が半数いた。学生は模擬授業に向けて指導案について、時間外でも相談したりするなど学習する姿がみられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけである。学生の全体の成績は80%を達成基準とすると到達している。しかし、D P別の「到達度評価」では、「知識・理解」がやや到達できていない。「授業の質評価」は4.2～4.7であるが、さらに保健教育に関する基礎的な「知識」について理解を深めるよう、授業におけるワークシートなどを工夫していきたい。